

厚生労働省科学研究費補助金

エイズ対策政策研究事業

MSM における予防啓発活動の評価手法の確立 及び PDCA サイクル構築のための研究



平成 30 年度 総括・分担研究報告書

研究代表者 塩野 徳史 大阪青山大学

平成 31(2019)年 3 月

厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策政策研究事業

MSM における予防啓発活動の評価手法の確立
及び PDCA サイクル構築のための研究

平成 30 年度 総括・分担研究報告書

研究代表者 塩野 徳史

大阪青山大学

平成 31(2019)年 3 月

厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策政策研究事業
MSMにおける予防啓発活動の評価手法の確立及びPDCAサイクル構築のための研究

研究組織および研究協力者一覧

(平成30年度)

研究代表者	塩野 徳史	大阪青山大学 健康科学部看護学科 講師
研究分担者	金子 典代	公立大学法人名古屋市立大学 看護学部 准教授
	健山 正男	国立大学法人琉球大学 大学院医学研究科 感染症・呼吸器・消化器内科学 准教授
	松岡 佐織	国立感染症研究所 エイズ研究センター 主任研究官
	山本 政弘	独立行政法人国立病院機構九州医療センター AIDS/HIV 総合治療センター 部長

研究協力者(50音順・職位略)

市川 誠一 人間環境大学大学院看護学研究科
生島 嗣 特定非営利活動法人 ふれいす東京
伊藤 俊宏 独立行政法人国立病院機構仙台医療センター
岩橋 恒太 特定非営利活動法人 akta
高久 陽介 特定非営利活動法人 JaNP+

研究協力団体

にじいろほっかいどう
やろっこ／コミュニティセンターZEL
特定非営利活動法人 akta／コミュニティセンターakta
特定非営利活動法人 SHIP
ANGEL LIFE NAGOYA／コミュニティセンターrise
MASH 大阪／コミュニティセンターdista
HaaT えひめ／BRIGE プロジェクト
nankr 沖縄／コミュニティセンターmabui
MSM ALL JAPAN.



厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策政策研究事業
MSMにおける予防啓発活動の評価手法の確立及びPDCAサイクル構築のための研究
平成30年度 総括・分担研究報告書

目次

I. 総括研究報告書

MSMにおける予防啓発活動の評価手法の確立及びPDCAサイクル構築のための研究 研究代表者 塩野 徳史	1
--	---

II. 分担研究報告書

1. 予防啓発活動におけるPDCAサイクルシステムの開発と機能的展開に関する研究 研究代表者 塩野 徳史	9
2. 予防行動に関する量的データ収集および包括的分析からの評価 研究分担者 金子 典代、他	22
3. 大阪のMSMにおけるHIV感染動向の把握に関する研究 -大阪ゲイコホートの継続 研究代表者 塩野 徳史、他	32
4. 沖縄に流入する外国人MSMの予防行動に関する研究 研究分担者 健山 正男、他	41
5. 日本のMSMにおけるHIV感染動向の把握に関する研究 -HIV感染発生動向を活用した分析 研究分担者 松岡 佐織	55
6. 医療者による新規患者・診療動向からの評価 研究分担者 山本 政弘	57

参考資料	59
------------	----

III. 研究成果の刊行に関する一覧表	131
---------------------------	-----

MSM における予防啓発活動の評価手法の確立及び PDCA サイクル構築のための研究

研究代表者 塩野徳史 大阪青山大学健康科学部看護学科 講師

研究要旨

日本ではCBO (Community based organization) ・医療者 ・疫学研究者等による協働のもと予防啓発が進められ、先行研究ではMSM (Men who have sex with men) のコンドーム使用行動は20%促進され、より感染リスクの高い層への啓発も進められているが、地方地域では都市部と比べ格差がある。日本全体では予防啓発活動基盤は脆弱で予防規範は未成熟であり、CBO は疲弊している。今後の活動にはスマートフォン普及によるゲイツーリズム活性化や外国籍MSM もふまえることが重要であり、オールジャパンでの取り組みが効果的な手法と考えられ、その体制を整備していく必要がある。

初年度は現在展開されている予防啓発活動を整理し、実態の把握方法と評価の体制を整備し、2回の意見交換の機会を設定した。その中で①社会疫学的見地からの評価 ②CBO による相互間の評価 ③相談支援者 ・ HIV 陽性当事者からみた予防介入の効果評価 ④予防行動に関する量的データ収集および包括的分析からの評価 ⑤日本のMSM におけるHIV 感染動向の把握と予防啓発活動の評価 ⑥医療者による新規患者 ・ 診療動向からの評価を試行した。

研究1では各地域CBOの予防啓発活動の実態についてはフォーマットを作成し予防啓発活動の可視化に繋がることを目的に試行した。またMSM における新しい予防(PEP/PrEP)の準備性の把握するためにインターネットモニターを活用した調査を実施する。研究2ではプログラムレベルのモニタリング体制としてコミュニティセンター利用者調査の実施方法について検討し、質問紙を作成し、実施体制を整備した。研究3では大阪市と協働し7回のHIV抗体および梅毒抗原抗体検査会を実施し、コホート調査を継続した。研究4では研究内容を再検討し沖縄に流入する外国人MSMを対象として、彼らの予防行動(検査行動および感染リスク行動)を明らかにすることを目的に研究を進めた。研究5ではHIV感染に関連する発生動向のデータを概ね入手し整理を進めた。解読不能な部分が時間を要したが、今年度中には基礎データとしてまとめる予定である。研究6では、主な医療機関でのHIV/AIDS患者の傾向を把握するためにアンケート調査の内容を検討し、倫理委員会の承認を得て準備を進めた。

次年度以降は研究1から研究6の成果を軸に、継続的に年に2回の意見交換の機会を設定し、当事者参加型で予防啓発活動の方向性を検討する。

研究分担者氏名（所属研究機関名及び所属研究機関における職名）

研究 2 金子典代（公立大学法人名古屋市立大学 看護学部 准教授）

研究 4 健山正男（国立大学法人琉球大学 大学院 医学系研究科 准教授）

研究 5 松岡佐織（国立感染症研究所 エイズ研究センター 主任研究官）

研究 6 山本政弘（独立行政法人国立病院機構九州医療センターAIDS/HIV 総合治療センター部長）

A. 研究目的

本研究の目的は、日本に居住する MSM を対象とした予防啓発活動における地域間の連携をもとに新たな取り組みのプランニングを行い、展開する基盤を整備することである。また、PDCA サイクルを導入することによって、日本の MSM の予防啓発の浸透度を把握し、予防啓発活動を可視化し、アカウントビリティを向上させることも含まれる。

新たな取り組みには、現行の予防啓発活動とその目的との整合性が重要であり、CBO の脆弱な基盤を焦点化させることが必要である。

PDCA サイクルの中でプログラム評価（参加型評価）の手法を活用した包括的な評価と、予防啓発活動のアカウントビリティの向上は、CBO の基盤の安定化につながると考える。

B. 研究方法

本研究では MSM 対象の予防啓発活動における地域間連携をもとに新たな活動計画を策定し、展開基盤を整備する。また、PDCA サイクルを導入することで、日本全体の MSM の予防啓発の浸透度を把握し、予防啓発活動を可視化し、アカウントビリティ向上を目的とし、以下の研究を実施する。

研究 1 予防啓発活動における PDCA サイクルシステムの開発と機能的展開に関する研究

北海道・東北・東京・神奈川県・東海・大

阪・中国・四国・沖縄地域の CBO と協働し、現在展開されている予防啓発活動を整理し、可視化する。アウトプットをもとに、班会議で社会疫学的視点や、CBO による相互間、相談支援者・HIV 陽性当事者の視点を含み、評価する体制を構築する。

そして現行の予防啓発活動の方針や計画を確認、見直しの必要性を班会議で検討する。オールジャパンでの予防啓発活動について年 2 回 CBO 当事者を主体とした会議で計画を検討する。最終年度には予防啓発活動の方向性について、包括的な視点を含んだアクション・プランを策定する。

また、基礎的な資料を得ることを目的として、MSM における新しい予防(PEP/PrEP)の準備性について、以下の調査を実施する。

2015 年の国勢調査を基に、20 歳から 59 歳の成人男性を 47 都道府県と年齢階級によって層化し、その割合に基づき、A 社・B 社保有のニター登録者を比例配分したのち、得られた成人男性を対象にしてスクリーニング調査を実施する。

本調査は「日本に居住する生涯の性交相手 が同性または両方である男性」を対象として、スクリーニング調査と同様に居住ブロックと年齢階級によって 2 段階化抽出を行い、A 社 1,000 人、B 社 3,000 人を比例配分し、本調査を実施する。

研究 2 予防行動に関する量的データ収集および包括的分析からの評価

先行研究の Community-based の量的調査結果をもとに予防啓発活動の浸透度、コンドーム使用行動、HIV 抗体検査受検行動 HIV に関する最新の知識や意識に関するデータを収集し分析を行う。予防啓発の浸透度を把握のため、プログラム・コミュニティ・ソーシャルの 3 レベルを基軸とし包括的にまとめ、班会議等で還元する体制を構築する。

初年度はプログラムレベルのモニタリング体制としてコミュニティセンター利用者調査

の実施方法について検討し、質問紙調査、実施体制を整備した。

研究1と同様の調査方法を用いて成人男性を対象に質問紙調査を行い、先行研究と比較しMSM(1,000人)・MSM以外の成人男性(1,000人)・セックスワークを利用するMSM以外の成人男性(1,000人)別に予防行動(コンドーム使用、検査行動、知識・意識)について比較し、基礎資料を得ることを目的とした。

研究3 大阪のMSMにおけるHIV感染動向の把握に関する研究 - 大阪ゲイコホートの継続

平成30年度から3年間、大阪市と協働し、個別施策層を対象としたHIV抗体検査および梅毒抗原抗体検査におけるコホート研究を継続する。

研究4 沖縄に流入する外国人MSMの予防行動に関する研究

沖縄は台湾や中国からの流入が多く、外国人MSMの流入が増加していることから、日本における検査行動の実態や予防行動に関する状況を量的調査により明らかにする。

研究5 日本のMSMにおけるHIV感染動向の把握に関する研究 - HIV感染発生動向を活用した分析

日本のMSMにおけるHIV感染の動向について、地域別の動向や出生年コホート等の二次分析を行い、班会議で還元する。また、梅毒などの性感染症の発生動向についてもMSMに焦点をあてた分析を行う。

研究6 医療者による新規患者・診療動向からの評価

主な医療機関での新規患者の傾向(AIDS発症の有無/検査場所等)を把握するためにアンケート調査を実施するとともに、各医療機関で最近の傾向について意見聴取し、班会議等で還元する。

(倫理面への配慮)

研究者が所属する研究機関において倫理審査を受けて実施する。またゲイ・バイセクシュアル男性は社会からの偏見・差別が強くこれらの点についての配慮が必要である。このため本研究では各地のCBOと連携し、調査項目や調査方法を検討し、本研究参加によって性的指向に関する差別や偏見を受けないように配慮する。

本研究は血液検査が含まれており、協力依頼時には訓練された専門のスタッフが書面および口頭によって説明し、研究主体、研究目的、調査参加の任意性、予想されるメリット、デメリット、厳密な個人情報の保護、不参加の際に不利益を受けないこと、途中で中止したい場合には登録を削除できる自由について十分に理解を得たのちに同意を得たうえで実施する。研究結果については、関連学会や出版物などで個人が特定されないように処理したデータの分析結果のみを公表することを説明する。

結果判明後の診療・支援体制についても保健所と同等の環境を整備した上で研究を実施する。大阪市保健所では陽性判明結果後にCBOによる対面相談や電話相談先が適宜紹介されており、本研究でも同様の支援先を紹介する。また血液検査時には専門的な知識を有するCBOと協働し、専門家による体面相談や外国籍MSM向けに通訳(中国語・英語)ができる体制を整備する。

本研究実施については大阪青山大学研究倫理審査委員会より実施の承認を得た。

C. 研究結果

研究1 予防啓発活動におけるPDCAサイクルシステムの開発と機能的展開に関する研究

初年度は、システムの構築をモデル事業として大阪で開発した。各地域CBOの予防啓発活動の可視化については下記のようなフォーマットを作成し可視化に繋がることを目的に試行した。本フォーマットを活用し、医療職

者、社会疫学研究者、CBO、相談支援者・HIV陽性当事者が参加し、予防啓発活動について包括的に意見交換する機会を2回設定した。

図1 活動報告フォーマット例

活動・プログラム名	新規 継続：○年から
プログラムの目的・必要性： 対象となる人や施設： 予算：コミュニティセンター事業費 / 地方行政事業費 / 寄付金 その他の投入資源：	
実施内容（資材展開 / WEB展開 / 資材・WEB展開）：	
結果： 実施日時） 参加者数 or 配布数 or アクセス数） 実施した反応）	

また基礎的な資料を得ることを目的として、成人男性におけるMSM割合および新しい予防(PEP/PrEP)の準備性の把握するために以下の調査を実施する。

2015年の国勢調査を基に、20歳から59歳の成人男性を47都道府県と年齢階級によって層化し、その割合に基づき、A社・B社保有のモニター登録者を比例配分したのち、得られた成人男性を対象にしてスクリーニング調査を実施する。

スクリーニング調査では性別、年齢、居住地、居住期間、居住形態、最終学歴、職業、婚姻状況と「これまでに性的に魅力を感じたことのある相手の性別」、「これまでに性的接触を有した相手の性別」、「相手にお金を払って性交渉(セックス)をした経験(これまでと過去6ヶ月間)」、「相手からお金をもらって性交渉(セックス)をした(これまでと過去6ヶ月間)」の12問を尋ねることとした。

本調査は「日本に居住する生涯の性交相手同性または両方である男性」を対象として、スクリーニング調査と同様に居住ブロックと年齢階級によって2段階抽出を行い、A社1,000人、B社3,000人を比例配分し、本調査を実施した。

本調査の質問項目はHIVや性感染症に関する知識、新たな予防方法についての知識・意識、過去6ヶ月間のHIVやエイズに関する対話経験、検査行動、性感染症既往歴、性行動などの全19問とした。

分析の結果、「HIV感染予防のためのセックス前の服薬(PrEP)」や「HIVに感染したかもしれないときの予防服薬(PEP)」に関する上記のような情報について、よく知っていた割合は11.1%である一方で、PrEPをしたことがあると回答した割合は10.7%であった。

研究2 予防行動に関する量的データ収集および包括的分析からの評価

初年度はプログラムレベルのモニタリング体制としてコミュニティセンター利用者調査の実施方法について以下のように検討した。

本研究の趣旨を事前に研修を受けたCBOスタッフが書面をもとに口頭で説明し、協力同意の得られた人を対象に回答を依頼した。回答後には、回答者自身がシールで封緘を行い、回答内容をスタッフがみることなく設置された回収箱に投函する仕組みとした。回答協力者にはQUOカード500円相当を協力謝礼として提供した。

質問項目は、先行研究をもとに作成し基本属性(性別、居住地、居住携帯、職業、セクシュアリティ)、過去6ヶ月間の利用施設など、検査行動、一番最近の性行動、性感染症既往歴、コミュニティセンターの利用経験、利用状況、HIV抗体検査や性感染症に対する規範など20問とした。質問項目の作成にあたってはCBOの意見をもとに修正を行った。HIV抗体検査や性感染症に関する規範については、先行研究で検査行動と関連が報告されている項目を抜粋し、20項目を作成した。1回目の調査は2019年2月から開始する予定であり、目標人数は来場者数を鑑み、東京300人、大阪200人、名古屋100人、仙台、沖縄で各50人とした。

総計 536 件の有効回答を得た。基礎集計と初来場者、リピーターとに区分し、来場経験別の比較を行った。HIV 感染予防や検査についての考えは、検査で早めにわかるメリットを感じているものは全体の 99%であった。リピーターのほうが初来場者より、自分の知り合いや友達の多くが検査を受けていると感じているものが多く、HIV に感染しても就労や今まで通りの生活が可能と感じているものが多かった。HIV 予防や検査の知識については TaSP について 90.1%が、治療薬の効果は 78.8%が、即日検査の擬陽性は 66.3%、ウィンドウピリオドは 81.1%が正答していた。A 型肝炎のワクチン接種の予防効果を知っているものは全体のうちの 52.5%であった。

本研究結果は、コミュニティセンターが果たしてきた機能の評価の基礎資料となる。また、初来場者を誘導するための方策や初来場者へのセンター内での対応についても考案する基礎資料となると考える。

研究 3 大阪の MSM における HIV 感染動向の把握に関する研究 - 大阪ゲイコホートの継続

大阪市と協働し、本年度は 7 回の HIV 抗体および梅毒抗原抗体検査会を実施した。うち 1 回は会場を移動させ、ゲイ向けクラブイベント会場で行った。会場内はスペースが狭く、コホートのシステムは含まずに、利便性を考え迅速検査で試行した。

2018 年 12 月までの実施の概要については表 1・表 2 に示した。なお、HIV 陽性者については本検査会の確認検査を経て、新たに感染が判明した人の数である。2018 年 5 月～12 月までの受検者数は 189 人であり、HIV 陽性割合は 0.5%、梅毒抗原陽性（要治療）割合は 7.4%であった。

表 1 HIV 抗体および梅毒抗原抗体検査会の概要①

実施月	5 月	7 月	9 月	11 月
受検者数	43 人	27 人	50 人	29 人
新規指紋登録者数 (登録率)	20 人 (64.5%)	12 人 (66.7%)	19 人 (48.7%)	10 人 (55.6%)
結果受取	41 人	25 人	50 人	28 人
HIV 陽性者 (割合)	0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)	1 人 (2.0%)	0 人 (0.0%)
梅毒抗原陽性者数 (割合)	5 人 (11.6%)	1 人 (3.7%)	5 人 (10.0%)	1 人 (3.4%)
梅毒感染既往者数 (割合)	2 人 (4.7%)	4 人 (14.8%)	5 人 (10.0%)	6 人 (20.7%)

表 2 HIV 抗体および梅毒抗原抗体検査会の概要②

実施月	12 月*	1 月	3 月	計
受検者数	40 人	集計中	集計中	189 人
新規指紋登録者数 (登録率)	実施せず	集計中	集計中	62 人 (57.5%)
結果受取	40 人	集計中	集計中	184 人
HIV 陽性者 (割合)	0 人 (0.0%)	集計中	集計中	1 人 (0.5%)
梅毒抗原陽性者数 (割合)	2 人 (5.0%)	集計中	集計中	14 人 (7.4%)
梅毒感染既往者数 (割合)	2 人 (5.0%)	集計中	集計中	19 人 (10.1%)

*12 月は HIV 抗体検査および梅毒抗原抗体検査をゲイ向けクラブイベント会場にて迅速検査で実施。

研究 4 沖縄に流入する外国人 MSM の予防行動に関する研究

研究計画では文化的背景の近い海外（台湾など）の MSM の動向と比較研究であったが、実施可能性を検討し、沖縄に流入する外国人 MSM を対象として、彼らの予防行動（検査行動および感染リスク行動）を明らかにすることを目的に研究を進めた。

近年のエイズ発生動向の特徴として外国籍 MSM の報告例の増加が示されている。これらの MSM の特性、性行動および受検行動等の情報を収集し、その対策を検討することは今後の MSM における HIV 感染対策において重要と

考える。

本研究では、多国籍化している訪日外国人、特に沖縄に流入する外国籍 MSM について、多言語で日本国内での性経験、検査受検経験、HIV 関連情報の認知状況等を把握し、外国籍 MSM を対象とする予防啓発活動の方向性を探索することを目的として、先行研究を基に多言語で比較可能な調査方法の準備を進めた。次年度以降に質問紙調査を実施する。

研究 5 日本の MSM における HIV 感染動向の把握に関する研究 - HIV 感染発生動向を活用した分析

初年度は、HIV 感染に関連する発生動向のデータを概ね入手し整理を進めた。解読不能な部分が時間を要したが、今年度中には基礎データとしてまとめる予定である。次年度以降は、基礎データを基に各地域の状況について比較検討し、予防啓発活動への還元方法を検討する。

研究 6 医療者による新規患者・診療動向からの評価

初年度は、主な医療機関での HIV/AIDS 患者の傾向を把握するためにアンケート調査の内容を検討し、倫理委員会の承認を得た。

内容は、抗 HIV 療法未導入の初診症例の総数、検査施設・医療機関・郵送検査などにおける検査数（自発的な検査および医師からの勧奨、輸血時等）、初診時にエイズを発症していた症例数、新規感染例数の傾向等とした。次年度以降に、各医療機関で最近の傾向についてアンケート調査を実施し、班会議等で還元方法を検討する。

D. 考察

本研究では MSM 対象の予防啓発活動の持続的な展開基盤を整備し、CBO と連携した日本全体の MSM における予防の浸透度から、アカウンタビリティの向上を目指した。初年度は主に体制整備を進めた。その一環と

して研究 1 ではモニター登録者を対象とした質問紙調査を実施する。同様の方法で 2012 年に 40,120 人を対象にした調査では MSM 割合 4.6% (95%CI : 4.4%-4.8%) であり、近年 LGBT をめぐる状況は大きく変化しているため MSM 割合は変化している可能性もある。新たな知識(研究 1)や日本全体の予防啓発活動の認知(研究 2)については先行研究ではほとんど把握されておらず重要な基礎資料が得られると考える。得られた MSM 割合を基に、研究 3 研究 5 で MSM 人口規模を算出し罹患率等の推計に用いる。研究 4 は流入が増加している外国人 MSM の予防行動の実態を把握し、今後の展開を検討するために必要である。研究 6 は医療現場の状況を CBO の予防啓発活動に還元させる仕組みとして機能すると考えられる。次年度以降は、各成果を軸に、予防啓発活動の方向性を検討する。

E. 結論

初年度は現在展開されている予防啓発活動を整理し、実態の把握と評価体制を整備し、2 回の意見交換の機会を設定した。その中で ①社会疫学的見地からの評価 ②CBO による相互間の評価 ③相談支援者・HIV 陽性当事者からみた予防介入の効果評価 ④予防行動に関する量的データ収集および包括的分析からの評価 ⑤日本の MSM における HIV 感染動向の把握と予防啓発活動の評価 ⑥医療者による新規患者・診療動向からの評価を試行した。

F. 健康危険情報

特になし。

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) ○塩野徳史, 市川誠一, 金子典代, 佐々木由理: 都市部保健所における HIV 抗体検査受検者の特性, 厚生指標, 2018, 65(5): 35-42
- 2) ○金子典代, 塩野徳史, 本間隆之, 岩橋恒太, 健山正男, 市川誠一: 地方都市在住の MSM (Men who have sex with men) における調査時点までと過去1年の HIV 検査経験と関連要因. 日本エイズ学会誌, 2019, 21(1) (受理済).

2. 学会発表

- 1) ○塩野徳史 ゲイコミュニティにおける HIV 抗体検査—『これまで』と『これから』 シンポジウム 3 HIV 将来予測と流行阻止 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29. 11. 24-26
- 2) ○塩野徳史 HIV 検査の受検阻害要因としてのスティグマ シンポジウム 4 スティグマの払拭は誰が担うのか 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29. 11. 24-26
- 3) ○塩野徳史, 後藤大輔, 町 登志雄, 宮田りりい, 大畑泰次郎, 伴仲昭彦, 鬼塚哲郎, 市川誠一 商業施設を利用しはじめる若年層 MSM を対象とした予防啓発介入の開発と効果評価 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29. 11. 24-26
- 4) ○荒木順子, 金子典代, 木南拓也, 岩橋恒太, 佐久間久弘, 阿部甚兵, 大島 岳, 太田 貴, 石田敏彦, 塩野徳史, 新山 賢, 金城 健, 本間隆之, 市川誠一 akta で展開したセーフティーセックスキャンペーンとコミュニティベース調査による効果評価 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29. 11. 24-26
- 5) ○宮田りりい, 塩野徳史, 後藤大輔, 町 登志雄, 大畑泰次郎, 市川誠一 MSM にお

ける性交相手との出会いの場所と方法—年齢層による差異について— 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29. 11. 24-26

- 6) ○塩野徳史, 後藤大輔, 町 登志雄, 宮田りりい MSM における検査行動に関する尺度開発とコミュニティセンター-dista 利用者の変化 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29. 11. 24-26
- 7) ○後藤大輔, 中村理恵, 宮田りりい, 塩野徳史 若年層向けの行政と連携した予防啓発方法の試み 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29. 11. 24-26
- 8) ○川畑拓也, 小島洋子, 森 治代, 駒野 淳, 岩佐 厚, 亀岡 博, 菅野展史, 近藤雅彦, 杉本賢治, 高田昌彦, 田端運久, 中村幸生, 古林敬一, 清田敦彦, 伏谷加奈子, 塩野徳史, 後藤大輔, 町 登志雄, 柴田敏之, 木下 優 大阪府における MSM 向け HIV/STI 検査相談事業・平成 28 年度実績報告 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29. 11. 24-26
- 9) ○Takaku Michiko, Dorjgotov Myagmardorj, Gombo Erdenetuya, Galsanjamts Nyampurev, Jagdagsuren Davaalkham, Ichikawa Seiichi, Shiono Satoshi, Kaneko Noriyo, Oka Shinichi Studies on NGOs' HIV prevention interventions targeting MSM community in Mongolia The 31st Annual Meeting of the Japanese Society for AIDS Research, Tokyo, Nov. 24-26, 2017
- 10) ○櫻井理恵, 真木景子, 浦林純江, 青木理恵, 浅井千絵, 松本健二, 小向 潤, 植田英也, 半羽宏之, 松村直樹, 久保徹朗, 安井典子, 塩野徳史, 市川誠一 保健福祉センターにおける HIV 抗原抗体検査受検者アンケートから見た MSM 対策の評価 ワークショップ 3 検査・相談体制 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29. 11. 24-26

- 11) ○塩野徳史：U=U をめぐるメッセージと
予防啓発 第 32 回日本エイズ学会学術
集会・総会 シンポジウム9 U=U 誰が何
をどう伝えるか：陽性者の人権とステイ
グマゼロへの取り組みを視野に入れて
大阪, H30. 12. 2-
- 12) ○塩野徳史：社会分野における予防指針
の課題 第 32 回日本エイズ学会学術集
会・総会 日本エイズ学会シンポジウム
エイズ予防指針改定の背景と課題 大阪,
H30. 12. 2-4

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得
なし。
2. 実用新案登録
なし。
3. その他
なし。

予防啓発活動における PDCA サイクルシステムの開発と機能的展開に関する研究

研究代表者：塩野徳史（大阪青山大学 健康科学部看護学科 講師）

研究協力者：市川誠一（人間環境大学）、生島嗣（NPO 法人ふれいす東京）、
高久陽介（NPO 法人 JaNP+）

研究協力：北海道；にじいろほっかいどう 東北；やろっこ/ZEL 首都圏；NPO 法人 akta/akta
横浜；NPO 法人 SHIP 東海；ANGEL LIFE NAGOYA/rise 近畿；MASH 大阪/dista
中国・四国；HaaT えひめ/BRIGE プロジェクト 沖縄；nankr 沖縄/mabui

研究要旨

初年度は、基礎的な資料を得ることを目的として、MSM における新しい予防(PEP/PrEP)の準備性について、質問紙調査を実施した。2015 年の国勢調査を基に、20 歳から 59 歳の成人男性を 47 都道府県と年齢階級によって層化し、その割合に基づき、A 社・B 社保有のニター登録者を比例配分したのち、得られた成人男性を対象にしてスクリーニング調査を実施した。HIV 抗体検査受検行動について、これまでに受検経験を有する人の割合は 36.0%であり、年齢によって有意差がみられた ($p<0.01$)。また過去 6 ヶ月間のアナルセックス経験があると回答したのは 41.8%であり、コンドーム使用状況は特定相手が 39.4%、特定以外の相手が 43.1%であった。「HIV 感染予防のためのセックス前の服薬 (PrEP)」や「HIV に感染したかもしれないときの予防服薬(PEP)」に関する上記のような情報について、よく知っていた割合は 11.1%である一方で、PrEP をしたことがあると回答した割合は 10.7%であった。今後より詳細に分析を進めていく必要があるが、予防行動が経年的に変化している可能性があることが示唆された。

A. 研究目的

本研究では、北海道・東北・東京・神奈川県・東海・大阪・中国・四国・沖縄地域の CBO と協働し、現在展開されている予防啓発活動を整理し、可視化することを目的としている。そして、アウトプットをもとに、班会議等で社会疫学的視点や、CBO による相互間、相談支援者・HIV 陽性当事者の視点を含み、評価する体制を構築する。

またインターネットの近年の普及やゲイ・ツーリズムを背景として、全地域が共同して取り組むことが求められている。またコミュニティセンターのない地域での HIV 感染報告も増加傾向であり、単独地域のみでは現行の予防啓発活動にも限界があると考えられる。

したがって予防活動の方針や計画を確認、見直しの必要があり、それらもふまえて班会議で検討し、オールジャパンでの予防啓発活動について年数回 CBO 当事者を主体とした会議で計画を検討する。最終年度には予防啓発活動の方向性について、包括的な視点を含んだアクション・プランを策定することを目標としている。

評価の方法としては、プログラムレベル・コミュニティレベル・ソーシャルレベルなどの視点から得られたデータを再構成する必要があると思われるが、初年度は、基礎的な資料を得ることを目的として、MSM における新しい予防(PEP/PrEP)の準備性について、質問紙調査を実施した。

2015年の国勢調査を基に、20歳から59歳の成人男性を47都道府県と年齢階級によって層化し、その割合に基づき、A社・B社保有のニター登録者を比例配分したのち、得られた成人男性を対象にしてスクリーニング調査を実施した。

B. 研究方法

本調査は「日本に居住する生涯の性交相手 が同性または両方である男性」を対象として、スクリーニング調査と同様に居住ブロックと年齢階級によって2段階抽出を行い、A社1,000人、B社3,000人を比例配分し、本調査を実施した。スクリーニング調査では性別、年齢、居住地、居住期間、居住形態、最終学歴、職業、婚姻状況と「これまでに性的に魅力を感じたことのある相手の性別」、「これまでに性的接触を有した相手の性別」、「相手にお金を払って性交渉（セックス）をした経験（これまでと過去6ヶ月間）」「相手からお金をもらって性交渉（セックス）をした（これまでと過去6ヶ月間）」の12問を尋ねることとした。

本調査は「日本に居住する生涯の性交相手 が同性または両方である男性」を対象として、スクリーニング調査と同様に居住ブロックと年齢階級によって2段階抽出を行い、A社1,000人、B社3,000人を比例配分し、本調査を実施した。

本調査の質問項目はHIVや性感染症に関する知識、新たな予防方法についての知識・意識、過去6ヶ月間のHIVやエイズに関する対話経験、検査行動、性感染症既往歴、性行動などの全19問とした。

本調査の質問項目は婚姻状況、HIVや性感染症に関する知識、過去6ヶ月間のHIVやエイズに関する対話経験、検査行動、性感染症既往歴、性行動、セックスワーク時の環境などを尋ね、分析では年齢層別のクロス集計を行った。カイ2乗検定を用いて検討した。有意水準を5%未満とした。データの集計および統計処理にはIBM

SPSS Statistics 23 (Windows)を用いた。

(倫理面への配慮)

本研究実施については大阪青山大学研究倫理審査委員会より実施の承認を得た。

C. 研究結果

本報告では20歳～59歳までの成人男性でかつこれまでに男性と性的接触のあると回答した人を対象に有効回答3,367人のB社のデータを分析した結果を示す。

年齢階級は29歳以下、30-39歳、40-49歳、50歳以上に分類した。居住地は北海道、東北、北関東、東京都、南関東、甲信越、北陸、東海、近畿、中国、四国、九州、沖縄県に分けて集計した。集計結果を表1～表12に示す。

主な結果として、居住形態では独居32.6%、同居66.6%であり、年齢によって有意差がみられた($p < 0.01$)。婚姻状況では既婚49.7%、未婚45.1%であり、年齢によって有意差がみられた($p < 0.01$)。セクシュアリティではヘテロセクシュアルと回答する人が多く36.5%、次いでバイセクシュアル25.0%、ゲイ19.1%であった。これまでに同性とのみ性交経験があるのは54.0%、同性と異性と両方と回答したのは46.0%であった。

HIV抗体検査受検行動について、これまでに受検経験を有する人の割合は36.0%であり、年齢によって有意差がみられた($p < 0.01$)。受検場所として最も多かったのは保健所の即日検査15.0%であり、次いで病院10.9%、保健所の夜間検査7.1%、保健所の即日・夜間以外の検査8.7%、クリニック・医院・診療所6.6%であった。未受検の理由として最も多かったのは「HIVに感染している可能性がない」47.1%であり、次いで「面倒だから」26.0%、「どこで検査を受けたら良いかわからない」15.3%、「機会(時間や場所など)があわなかった」15.3%、「お金がかかる」13.6%、「結果を知るのが怖いから」13.1%であった。

また過去6ヶ月間のアナルセックス経験があると回答したのは41.8%であり、コンドーム使用状況は特定相手が39.4%、特定以外の相手が43.1%であった。

「HIV感染予防のためのセックス前の服薬(PrEP)」や「HIVに感染したかもしれないときの予防服薬(PEP)」に関する上記のような情報について、よく知っていた割合は11.1%である一方で、PrEPをしたことがあると回答した割合は10.7%であった。

D. 考察

先行研究と比べ、MSMにおける属性について著変ないと考えられるが、今回初めてセクシュアリティに関する質問が可能となり、MSMの中で高い割合でヘテロセクシュアルと自認する人がいることが明らかとなった。商業施設利用については先行研究と比較してやや高い割合となっており、回答バイアスが低減された可能性も考えられる。

またコミュニティセンターの認知が明らかとなった。その一方で、検査行動や予防行動は低い割合でとどまっており、予防啓発の方法を検証していく必要がある。PrEPの経験者が10%を越えており、このことについても早急に対応していく必要がある。

E. 結論

初年度は北海道・東北・東京・神奈川県・東海・大阪・中国・四国・沖縄地域のCBOと協働体制を整備し、オールジャパンの活動の方向性を検討し始めた。

また先行研究と同様の方法で、二段層化抽出法を用いてオールジャパンに関わるMSMのデータを得た。これにはMSMにおける新しい予防(PEP/PrEP)の準備性やA型肝炎などのワクチン接種経験といった新しいデータも含まれており、今後詳細に分析を進めていき、予防啓発活動に還元していく。

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) ○塩野徳史, 市川誠一, 金子典代, 佐々木由理: 都市部保健所におけるHIV抗体検査受検者の特性, 厚生指標, 2018, 65(5): 35-42
- 2) ○金子典代, 塩野徳史, 本間隆之, 岩橋恒太, 健山正男, 市川誠一: 地方都市在住のMSM (Men who have sex with men) における調査時点までと過去1年のHIV検査経験と関連要因. 日本エイズ学会誌, 2019, 21(1) (受理済).

2. 学会発表

- 1) ○塩野徳史 ゲイコミュニティにおけるHIV抗体検査—『これまで』と『これから』 シンポジウム3 HIV将来予測と流行阻止 第31回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29. 11. 24-26
- 2) ○塩野徳史 HIV検査の受検阻害要因としてのスティグマ シンポジウム4 スティグマの払拭は誰が担うのか 第31回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29. 11. 24-26
- 3) ○塩野徳史, 後藤大輔, 町登志雄, 宮田りりい, 大畑泰次郎, 伴仲昭彦, 鬼塚哲郎, 市川誠一 商業施設を利用しはじめる若年層MSMを対象とした予防啓発介入の開発と効果評価 第31回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29. 11. 24-26
- 4) ○荒木順子, 金子典代, 木南拓也, 岩橋恒太, 佐久間久弘, 阿部甚兵, 大島岳, 太田貴, 石田敏彦, 塩野徳史, 新山賢, 金城健, 本間隆之, 市川誠一 aktaで展開したセーフターセックスキャンペーンとコミュニティベース調査による効果評価 第31回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29. 11. 24-26
- 5) ○宮田りりい, 塩野徳史, 後藤大輔, 町登志雄, 大畑泰次郎, 市川誠一 MSMにお

- ける性交相手との出会いの場所と方法— 年齢層による差異について— 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29. 11. 24-26
- 6) ○塩野徳史, 後藤大輔, 町 登志雄, 宮田りりい MSM における検査行動に関する尺度開発とコミュニティセンターdista利用者の変化 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29. 11. 24-26
- 7) ○後藤大輔, 中村理恵, 宮田りりい, 塩野徳史 若年層向けの行政と連携した予防啓発方法の試み 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29. 11. 24-26
- 8) ○川畑拓也, 小島洋子, 森 治代, 駒野 淳, 岩佐 厚, 亀岡 博, 菅野展史, 近藤雅彦, 杉本賢治, 高田昌彦, 田端運久, 中村幸生, 古林敬一, 清田敦彦, 伏谷加奈子, 塩野徳史, 後藤大輔, 町 登志雄, 柴田敏之, 木下 優 大阪府における MSM 向け HIV/STI 検査相談事業・平成 28 年度実績報告 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29. 11. 24-26
- 9) ○Takaku Michiko, Dorjgotov Myagmardorj, Gombo Erdenetuya, Galsanjamts Nyampurev, Jagdagsuren Davaalkham, Ichikawa Seiichi, Shiono Satoshi, Kaneko Noriyo, Oka Shinichi Studies on NGOs' HIV prevention interventions targeting MSM community in Mongolia The 31st Annual Meeting of the Japanese Society for AIDS Research, Tokyo, Nov. 24-26, 2017
- 10) ○櫻井理恵, 真木景子, 浦林純江, 青木理恵, 浅井千絵, 松本健二, 小向 潤, 植田英也, 半羽宏之, 松村直樹, 久保徹朗, 安井典子, 塩野徳史, 市川誠一 保健福祉センターにおける HIV 抗原抗体検査受検者アンケートから見た MSM 対策の評価 ワークショップ 3 検査・相談体制 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29. 11. 24-26
- 11) ○塩野徳史 : U=U をめぐるメッセージと予防啓発 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会 シンポジウム 9 U=U 誰が何をどう伝えるか : 陽性者の人権とスティグマゼロへの取り組みを視野に入れて 大阪, H30. 12. 2-
- 12) ○塩野徳史 : 社会分野における予防指針の課題 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会 日本エイズ学会シンポジウム エイズ予防指針改定の背景と課題 大阪, H30. 12. 2-4

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得
なし。
2. 実用新案登録
なし。
3. その他
なし。

表1 年齢層別 基本属性

	29歳以下 n=326	30-39歳 n=846	40-49歳 n=1259	50歳以上 n=936	合計 n=3367	Pearson カイ2乗
地域ブロック						
北海道ブロック	5 1.5%	24 2.8%	91 7.2%	63 6.7%	183 5.4%	<0.01
東北ブロック	26 8.0%	46 5.4%	73 5.8%	48 5.1%	193 5.7%	
北関東ブロック	34 10.4%	109 12.9%	168 13.3%	128 13.7%	439 13.0%	
東京ブロック	82 25.2%	180 21.3%	237 18.8%	132 14.1%	631 18.7%	
南関東ブロック	33 10.1%	143 16.9%	170 13.5%	150 16.0%	496 14.7%	
甲信越ブロック	10 3.1%	17 2.0%	27 2.1%	28 3.0%	82 2.4%	
北陸ブロック	6 1.8%	17 2.0%	18 1.4%	20 2.1%	61 1.8%	
東海ブロック	42 12.9%	101 11.9%	126 10.0%	108 11.5%	377 11.2%	
近畿ブロック	42 12.9%	132 15.6%	201 16.0%	160 17.1%	535 15.9%	
中国ブロック	11 3.4%	18 2.1%	34 2.7%	39 4.2%	102 3.0%	
四国ブロック	9 2.8%	9 1.1%	19 1.5%	15 1.6%	52 1.5%	
九州ブロック	20 6.1%	44 5.2%	72 5.7%	39 4.2%	175 5.2%	
沖縄ブロック	6 1.8%	6 0.7%	23 1.8%	6 0.6%	41 1.2%	
あなたは、現在お住まいの地域にどのくらいの期間住んでいますか。生まれてからずっと現在の地域に住んでいる場合は「1.生まれてからずっと」をお選びください。						
生まれてからずっと	125 38.3%	241 28.5%	309 24.5%	171 18.3%	846 25.1%	<0.01
1年未満	31 9.5%	46 5.4%	36 2.9%	25 2.7%	138 4.1%	
1-5年未満	94 28.8%	154 18.2%	114 9.1%	73 7.8%	435 12.9%	
5-10年未満	26 8.0%	111 13.1%	164 13.0%	71 7.6%	372 11.0%	
10-20年未満	21 6.4%	169 20.0%	306 24.3%	191 20.4%	687 20.4%	
20年以上	29 8.9%	125 14.8%	330 26.2%	405 43.3%	889 26.4%	
あなたは、現在、一人暮らしですか。単身赴任などで、一時的に別の家で生活している、平日だけ別の家で生活している場合は1人暮らしに含みます。						
はい(1人暮らし)	175 53.7%	271 32.0%	396 31.5%	256 27.4%	1,098 32.6%	<0.01
いいえ	149 45.7%	573 67.7%	852 67.7%	669 71.5%	2,243 66.6%	
定住している家はない	2 0.6%	2 0.2%	11 0.9%	11 1.2%	26 0.8%	
あなたの最終学歴をお答えください。						
小学校	1 0.3%	1 0.1%	5 0.4%	2 0.2%	9 0.3%	<0.01
中学校	3 0.9%	37 4.4%	30 2.4%	24 2.6%	94 2.8%	
高等学校	74 22.7%	173 20.4%	286 22.7%	218 23.3%	751 22.3%	
専門学校	39 12.0%	65 7.7%	180 14.3%	90 9.6%	374 11.1%	
短大・高専	14 4.3%	21 2.5%	39 3.1%	25 2.7%	99 2.9%	
大学	177 54.3%	466 55.1%	615 48.8%	492 52.6%	1,750 52.0%	
大学院	18 5.5%	83 9.8%	103 8.2%	82 8.8%	286 8.5%	
その他	0 0.0%	0 0.0%	1 0.1%	3 0.3%	4 0.1%	
あなたの現在の職業として、最も近いのは次のどれですか。						
常勤(正規雇用)	204 62.6%	624 73.8%	918 72.9%	615 65.7%	2,361 70.1%	<0.01
常勤(非正規雇用)	20 6.1%	54 6.4%	64 5.1%	55 5.9%	193 5.7%	
パートタイマー	11 3.4%	27 3.2%	27 2.1%	18 1.9%	83 2.5%	
アルバイト	45 13.8%	43 5.1%	35 2.8%	13 1.4%	136 4.0%	
経営者	11 3.4%	40 4.7%	105 8.3%	109 11.6%	265 7.9%	
その他	0 0.0%	10 1.2%	21 1.7%	32 3.4%	63 1.9%	
働いていない	35 10.7%	48 5.7%	89 7.1%	94 10.0%	266 7.9%	
あなたは、現在結婚していますか。						
結婚している	79 24.2%	374 44.2%	639 50.8%	583 62.3%	1,675 49.7%	<0.01
離別・死別	12 3.7%	33 3.9%	51 4.1%	76 8.1%	172 5.1%	
未婚	235 72.1%	439 51.9%	569 45.2%	277 29.6%	1,520 45.1%	
あなたが、これまでに性的に魅力を感じたことのある人の性別をあげてください。						
同性のみ	122 37.4%	363 42.9%	621 49.3%	493 52.7%	1,599 47.5%	<0.01
同性、異性どちらにも性的な魅力を感じる	134 41.1%	364 43.0%	438 34.8%	246 26.3%	1,182 35.1%	
異性のみ	55 16.9%	104 12.3%	178 14.1%	172 18.4%	509 15.1%	
同性にも異性にも性的な魅力を感じたことはない	6 1.8%	3 0.4%	2 0.2%	8 0.9%	19 0.6%	
わからない	9 2.8%	12 1.4%	20 1.6%	17 1.8%	58 1.7%	
あなたがこれまでに性交渉(セックス)をした相手の性別は次のどれに該当しますか。						
同性のみ	173 53.1%	426 50.4%	686 54.5%	534 57.1%	1,819 54.0%	0.04
同性と異性の両方	153 46.9%	420 49.6%	573 45.5%	402 42.9%	1,548 46.0%	
あなたは以下のどれにあてはまりますか。						
ゲイ(同性愛者)	81 24.8%	180 21.3%	238 18.9%	144 15.4%	643 19.1%	<0.01
バイセクシュアル(両性愛者)	110 33.7%	279 33.0%	281 22.3%	173 18.5%	843 25.0%	
ヘテロセクシュアル(異性愛者)	65 19.9%	256 30.3%	482 38.3%	427 45.6%	1,230 36.5%	
わからない	40 12.3%	74 8.7%	155 12.3%	119 12.7%	388 11.5%	
決めたくない	27 8.3%	54 6.4%	99 7.9%	62 6.6%	242 7.2%	
その他	3 0.9%	3 0.4%	4 0.3%	11 1.2%	21 0.6%	

表2 年齢層別 インターネット利用および性感染症既往および過去6ヶ月間の併用品

	29歳以下 n=326	30-39歳 n=846	40-49歳 n=1259	50歳以上 n=936	合計 n=3367	Pearson カイ2乗					
これまでにパソコンや携帯電話やスマートフォンの出会い系サイト/掲示板/アプリ/Twitterで出会った相手と性交渉をしたことがありますか。											
ある	178	54.6%	508	60.0%	610	48.5%	333	35.6%	1,629	48.4%	<0.01
ない	148	45.4%	338	40.0%	649	51.5%	603	64.4%	1,738	51.6%	
過去6ヶ月間にパソコンや携帯電話やスマートフォンの出会い系サイト/掲示板/アプリ/Twitterで出会った相手と性交渉をしたことがありますか。											
ある	127	39.0%	310	36.6%	309	24.5%	147	15.7%	893	26.5%	<0.01
ない	199	61.0%	536	63.4%	950	75.5%	789	84.3%	2,474	73.5%	
あなたは、これまでに相手にお金を払って性交渉(セックス)をしたことがありますか。											
ある	173	53.1%	483	57.1%	708	56.2%	584	62.4%	1,948	57.9%	0.01
ない	153	46.9%	363	42.9%	551	43.8%	352	37.6%	1,419	42.1%	
あなたは、これまでに相手からお金をもらって性交渉(セックス)をしたことがありますか。											
ある	142	43.6%	281	33.2%	268	21.3%	126	13.5%	817	24.3%	<0.01
ない	184	56.4%	565	66.8%	991	78.7%	810	86.5%	2,550	75.7%	
これまでに性感染症にかかったことがありますか。											
ある	85	26.1%	229	27.1%	277	22.0%	209	22.3%	800	23.8%	0.03
ない	241	73.9%	617	72.9%	982	78.0%	727	77.7%	2,567	76.2%	
生涯の性感染症既往											
梅毒	30	9.2%	72	8.5%	68	5.4%	48	5.1%	218	6.5%	0.01
A型肝炎	23	7.1%	29	3.4%	27	2.1%	9	1.0%	88	2.6%	<0.01
B型肝炎	22	6.7%	36	4.3%	31	2.5%	22	2.4%	111	3.3%	<0.01
C型肝炎	10	3.1%	20	2.4%	13	1.0%	2	0.2%	45	1.3%	<0.01
尖圭コンジローマ	14	4.3%	28	3.3%	39	3.1%	14	1.5%	95	2.8%	0.01
クラミジア	23	7.1%	81	9.6%	101	8.0%	72	7.7%	277	8.2%	0.06
淋病	14	4.3%	44	5.2%	65	5.2%	77	8.2%	200	5.9%	<0.01
性器ヘルペス	20	6.1%	33	3.9%	33	2.6%	31	3.3%	117	3.5%	0.01
赤痢アメーバ	6	1.8%	8	0.9%	11	0.9%	5	0.5%	30	0.9%	0.04
HIV感染症	12	3.7%	32	3.8%	31	2.5%	19	2.0%	94	2.8%	0.05
毛じらみ	14	4.3%	41	4.8%	64	5.1%	56	6.0%	175	5.2%	0.01
その他の性感染症	4	1.2%	9	1.1%	18	1.4%	14	1.5%	45	1.3%	0.07
過去6ヶ月間に、セックスの時に同時に使用したものがありましたら教えてください。											
水溶性ローション(潤滑剤)	129	39.6%	356	42.1%	403	32.0%	223	23.8%	1,111	33.0%	<0.01
ハンドクリーム	67	20.6%	62	7.3%	58	4.6%	25	2.7%	212	6.3%	<0.01
ぼっき薬(バイアグラなど)	47	14.4%	88	10.4%	94	7.5%	98	10.5%	327	9.7%	<0.01
ラッシュ	26	8.0%	38	4.5%	30	2.4%	19	2.0%	113	3.4%	<0.01
5MEO-DIPT(ゴメオ・フォクシー)	17	5.2%	29	3.4%	13	1.0%	4	0.4%	63	1.9%	<0.01
スピード・エクスタシー(MDMAなど)	15	4.6%	30	3.5%	15	1.2%	7	0.7%	67	2.0%	<0.01
その他のセックスドラッグ(合ドラや威哥王など)	8	2.5%	20	2.4%	10	0.8%	5	0.5%	43	1.3%	<0.01
静脈注射のドラッグ	11	3.4%	12	1.4%	2	0.2%	2	0.2%	27	0.8%	<0.01
違法ドラッグ(マリファナ・コカイン・大麻等)	10	3.1%	13	1.5%	14	1.1%	0	0.0%	37	1.1%	<0.01
HIV感染予防のためのセックス前の服薬(PrEP)	13	4.0%	28	3.3%	14	1.1%	6	0.6%	61	1.8%	<0.01
HIVに感染したかもしれないときの予防服薬(PEP)	4	1.2%	15	1.8%	8	0.6%	0	0.0%	27	0.8%	<0.01
いずれも使用していない	119	36.5%	406	48.0%	780	62.0%	640	68.4%	1,945	57.8%	<0.01
過去6ヶ月間のセックス時の併用品(再掲)											
いずれもない	245	75.2%	720	85.1%	1,112	88.3%	819	87.5%	2,896	86.0%	<0.01
ぼっき薬のみ	27	8.3%	59	7.0%	78	6.2%	87	9.3%	251	7.5%	
薬物併用	54	16.6%	67	7.9%	69	5.5%	30	3.2%	220	6.5%	
あなたは過去6ヶ月間に、膣性交やアナルセックスをしたことがありますか。											
ある	173	53.1%	437	51.7%	518	41.1%	281	30.0%	1,409	41.8%	<0.01
ない	153	46.9%	409	48.3%	741	58.9%	655	70.0%	1,958	58.2%	

表3 年齢層別 性行動

	29歳以下 n=173	30-39歳 n=437	40-49歳 n=518	50歳以上 n=281	合計 n=1409	Pearson カイ2乗
過去6ヶ月間に、全部で何名の方と「膣性交」や「アナルセックス」をしましたか。配偶者も含めて数えてください。 ¹⁾						
1人	71 41.0%	140 32.0%	233 45.0%	114 40.6%	558 39.6%	<0.01
2人	41 23.7%	96 22.0%	104 20.1%	69 24.6%	310 22.0%	
3人	25 14.5%	80 18.3%	69 13.3%	51 18.1%	225 16.0%	
4人	6 3.5%	30 6.9%	14 2.7%	11 3.9%	61 4.3%	
5人	7 4.0%	21 4.8%	13 2.5%	4 1.4%	45 3.2%	
6人以上	23 13.3%	70 16.0%	85 16.4%	32 11.4%	210 14.9%	
過去6ヶ月間の膣性交やアナルセックスの頻度はどのくらいでしたか。 ¹⁾						
月に1回程度以下	59 34.1%	187 42.8%	219 42.3%	166 59.1%	631 44.8%	<0.01
月に2-3回	63 36.4%	144 33.0%	138 26.6%	68 24.2%	413 29.3%	
週1回程度	31 17.9%	52 11.9%	92 17.8%	30 10.7%	205 14.5%	
週2-4回	13 7.5%	26 5.9%	49 9.5%	11 3.9%	99 7.0%	
週5回以上	7 4.0%	28 6.4%	20 3.9%	6 2.1%	61 4.3%	
過去6ヶ月間に、恋人や夫などの特定の男性とアナルセックスをしましたか。 ¹⁾						
ある	105 60.7%	236 54.0%	198 38.2%	109 38.8%	648 46.0%	<0.01
ない	68 39.3%	201 46.0%	320 61.8%	172 61.2%	761 54.0%	
過去6ヶ月間に、恋人や夫などの特定の男性とのコンドーム使用状況 ²⁾						
非常用	68 64.8%	119 50.4%	141 71.2%	65 59.6%	393 60.6%	<0.01
常用	37 35.2%	117 49.6%	57 28.8%	44 40.4%	255 39.4%	
過去6ヶ月間に、特定以外の男性とアナルセックスをしましたか。 ¹⁾						
ある	99 57.2%	195 44.6%	195 37.6%	82 29.2%	571 40.5%	<0.01
ない	74 42.8%	242 55.4%	323 62.4%	199 70.8%	838 59.5%	
過去6ヶ月間に、特定以外の男性とのコンドーム使用状況 ³⁾						
非常用	55 55.6%	107 54.9%	120 61.5%	43 52.4%	325 56.9%	0.43
常用	44 44.4%	88 45.1%	75 38.5%	39 47.6%	246 43.1%	

- 1) 過去6ヶ月間に、膣性交やアナルセックスをした1,409人を対象に分析した。
 2) 過去6ヶ月間に、恋人や夫などの特定の男性とアナルセックスをした648人を対象に分析した。
 3) 過去6ヶ月間に、特定以外の男性とアナルセックスをした571人を対象に分析した。

表4 年齢層別 対話経験

	29歳以下 n=326	30-39歳 n=846	40-49歳 n=1259	50歳以上 n=936	合計 n=3367	Pearson カイ2乗
過去6ヶ月間に、両親や兄弟姉妹とHIVやエイズについて話したことがありますか。						
ある	90 27.6%	121 14.3%	109 8.7%	68 7.3%	388 11.5%	<0.01
ない	149 45.7%	497 58.7%	775 61.6%	591 63.1%	2,012 59.8%	
該当する人はいない	87 26.7%	228 27.0%	375 29.8%	277 29.6%	967 28.7%	
過去6ヶ月間に、恋人や大切な人とHIVやエイズについて話したことがありますか。						
ある	95 29.1%	213 25.2%	216 17.2%	146 15.6%	670 19.9%	<0.01
ない	128 39.3%	377 44.6%	619 49.2%	495 52.9%	1,619 48.1%	
該当する人はいない	103 31.6%	256 30.3%	424 33.7%	295 31.5%	1,078 32.0%	
過去6ヶ月間に、友達や知り合いとHIVやエイズについて話したことがありますか。						
ある	99 30.4%	211 24.9%	262 20.8%	161 17.2%	733 21.8%	<0.01
ない	138 42.3%	408 48.2%	633 50.3%	524 56.0%	1,703 50.6%	
該当する人はいない	89 27.3%	227 26.8%	364 28.9%	251 26.8%	931 27.7%	
過去6ヶ月間に、セックスした相手とHIVやエイズについて話したことがありますか。						
ある	91 27.9%	171 20.2%	181 14.4%	91 9.7%	534 15.9%	<0.01
ない	132 40.5%	427 50.5%	626 49.7%	486 51.9%	1,671 49.6%	
該当する人はいない	103 31.6%	248 29.3%	452 35.9%	359 38.4%	1,162 34.5%	
過去6ヶ月間に、医療関係者とHIVやエイズについて話したことがありますか。						
ある	81 24.8%	140 16.5%	134 10.6%	90 9.6%	445 13.2%	<0.01
ない	134 41.1%	447 52.8%	703 55.8%	546 58.3%	1,830 54.4%	
該当する人はいない	111 34.0%	259 30.6%	422 33.5%	300 32.1%	1,092 32.4%	
あなたは、友達や知り合いにHIVに感染している人はいると思いませんか。						
いる	57 17.5%	99 11.7%	122 9.7%	84 9.0%	362 10.8%	<0.01
いると思う	61 18.7%	144 17.0%	157 12.5%	107 11.4%	469 13.9%	
いないと思う	111 34.0%	353 41.7%	512 40.7%	356 38.0%	1,332 39.6%	
いない	54 16.6%	122 14.4%	232 18.4%	166 17.7%	574 17.0%	
わからない	43 13.2%	128 15.1%	236 18.7%	223 23.8%	630 18.7%	

表5 年齢層別 コミュニティセンター認知

	29歳以下 n=326	30-39歳 n=846	40-49歳 n=1259	50歳以上 n=936	合計 n=3367	Pearson カイ2乗					
あなたはこれまでに男性同性愛者が利用するような次の場所に行ったことがありますか。-ゲイバー											
ある	137	42.0%	357	42.2%	457	36.3%	344	36.8%	1,295	38.5%	0.03
ない	171	52.5%	449	53.1%	717	56.9%	524	56.0%	1,861	55.3%	
知らない	18	5.5%	40	4.7%	85	6.8%	68	7.3%	211	6.3%	
あなたはこれまでに男性同性愛者が利用するような次の場所に行ったことがありますか。-ゲイ向けクラブイベント											
ある	98	30.1%	261	30.9%	269	21.4%	137	14.6%	765	22.7%	<0.01
ない	207	63.5%	538	63.6%	884	70.2%	702	75.0%	2,331	69.2%	
知らない	21	6.4%	47	5.6%	106	8.4%	97	10.4%	271	8.0%	
あなたはこれまでに男性同性愛者が利用するような次の場所に行ったことがありますか。-その他のゲイ向け商業施設(サウナ等)											
ある	113	34.7%	275	32.5%	379	30.1%	226	24.1%	993	29.5%	<0.01
ない	183	56.1%	503	59.5%	748	59.4%	606	64.7%	2,040	60.6%	
知らない	30	9.2%	68	8.0%	132	10.5%	104	11.1%	334	9.9%	
これまでのゲイ向け商業施設利用(再掲)											
いずれもなし	166	50.9%	408	48.2%	700	55.6%	541	57.8%	1,815	53.9%	<0.01
いずれかあり	160	49.1%	438	51.8%	559	44.4%	395	42.2%	1,552	46.1%	
Community Center認知											
コミュニティセンター-ZEL(宮城県仙台市)											
これまでに1度は行ったことがある	79	24.2%	105	12.4%	57	4.5%	13	1.4%	254	7.5%	<0.01
知っているけど行ったことはない	38	11.7%	97	11.5%	95	7.5%	33	3.5%	263	7.8%	
知らない	209	64.1%	644	76.1%	1,107	87.9%	890	95.1%	2,850	84.6%	
コミュニティセンター-akta(東京都新宿区)											
これまでに1度は行ったことがある	69	21.2%	137	16.2%	90	7.1%	29	3.1%	325	9.7%	<0.01
知っているけど行ったことはない	75	23.0%	116	13.7%	133	10.6%	73	7.8%	397	11.8%	
知らない	182	55.8%	593	70.1%	1,036	82.3%	834	89.1%	2,645	78.6%	
コミュニティセンター-SHIP(神奈川県横浜市)											
これまでに1度は行ったことがある	71	21.8%	97	11.5%	56	4.4%	15	1.6%	239	7.1%	<0.01
知っているけど行ったことはない	50	15.3%	119	14.1%	101	8.0%	55	5.9%	325	9.7%	
知らない	205	62.9%	630	74.5%	1,102	87.5%	866	92.5%	2,803	83.2%	
コミュニティセンター-rise(愛知県名古屋市)											
これまでに1度は行ったことがある	63	19.3%	77	9.1%	50	4.0%	22	2.4%	212	6.3%	<0.01
知っているけど行ったことはない	55	16.9%	128	15.1%	99	7.9%	43	4.6%	325	9.7%	
知らない	208	63.8%	641	75.8%	1,110	88.2%	871	93.1%	2,830	84.1%	
コミュニティセンター-dista(大阪府大阪市)											
これまでに1度は行ったことがある	70	21.5%	90	10.6%	64	5.1%	19	2.0%	243	7.2%	<0.01
知っているけど行ったことはない	52	16.0%	116	13.7%	108	8.6%	60	6.4%	336	10.0%	
知らない	204	62.6%	640	75.7%	1,087	86.3%	857	91.6%	2,788	82.8%	
コミュニティセンター-Haco(福岡県福岡市)											
これまでに1度は行ったことがある	59	18.1%	76	9.0%	43	3.4%	9	1.0%	187	5.6%	<0.01
知っているけど行ったことはない	54	16.6%	110	13.0%	97	7.7%	47	5.0%	308	9.1%	
知らない	213	65.3%	660	78.0%	1,119	88.9%	880	94.0%	2,872	85.3%	
コミュニティセンター-mabui(沖縄県那覇市)											
これまでに1度は行ったことがある	54	16.6%	77	9.1%	42	3.3%	14	1.5%	187	5.6%	<0.01
知っているけど行ったことはない	48	14.7%	101	11.9%	94	7.5%	34	3.6%	277	8.2%	
知らない	224	68.7%	668	79.0%	1,123	89.2%	888	94.9%	2,903	86.2%	
これまでのコミュニティセンター利用(再掲)											
利用なし	211	64.7%	639	75.5%	1,115	88.6%	883	94.3%	2,848	84.6%	<0.01
利用あり	115	35.3%	207	24.5%	144	11.4%	53	5.7%	519	15.4%	
コミュニティセンター認知(再掲)											
知らない	164	50.3%	534	63.1%	972	77.2%	799	85.4%	2,469	73.3%	<0.01
知っているけど行ったことはない	47	14.4%	105	12.4%	143	11.4%	84	9.0%	379	11.3%	
これまでに1度は行ったことがある	115	35.3%	207	24.5%	144	11.4%	53	5.7%	519	15.4%	

表6 年齢層別 CBO 認知

		29歳以下 n=326	30-39歳 n=846	40-49歳 n=1259	50歳以上 n=936	合計 n=3367	Pearson カイ2乗
にじいろほっかいどう	知っている	102 31.3%	138 16.3%	101 8.0%	39 4.2%	380 11.3%	<0.01
	知らない	224 68.7%	708 83.7%	1,158 92.0%	897 95.8%	2,987 88.7%	
やろっこ	知っている	90 27.6%	127 15.0%	89 7.1%	29 3.1%	335 9.9%	<0.01
	知らない	236 72.4%	719 85.0%	1,170 92.9%	907 96.9%	3,032 90.1%	
NPO法人akta	知っている	84 25.8%	183 21.6%	159 12.6%	63 6.7%	489 14.5%	<0.01
	知らない	242 74.2%	663 78.4%	1,100 87.4%	873 93.3%	2,878 85.5%	
NPO法人SHIP	知っている	77 23.6%	165 19.5%	116 9.2%	49 5.2%	407 12.1%	<0.01
	知らない	249 76.4%	681 80.5%	1,143 90.8%	887 94.8%	2,960 87.9%	
ANGEL LIFE NAGOYA	知っている	74 22.7%	136 16.1%	105 8.3%	40 4.3%	355 10.5%	<0.01
	知らない	252 77.3%	710 83.9%	1,154 91.7%	896 95.7%	3,012 89.5%	
MASH大阪	知っている	81 24.8%	122 14.4%	109 8.7%	50 5.3%	362 10.8%	<0.01
	知らない	245 75.2%	724 85.6%	1,150 91.3%	886 94.7%	3,005 89.2%	
HaoTえひめ	知っている	75 23.0%	110 13.0%	79 6.3%	35 3.7%	299 8.9%	<0.01
	知らない	251 77.0%	736 87.0%	1,180 93.7%	901 96.3%	3,068 91.1%	
BRIDGEプロジェクト	知っている	81 24.8%	120 14.2%	84 6.7%	35 3.7%	320 9.5%	<0.01
	知らない	245 75.2%	726 85.8%	1,175 93.3%	901 96.3%	3,047 90.5%	
LOVE ACT FUKUOKA	知っている	71 21.8%	125 14.8%	90 7.1%	31 3.3%	317 9.4%	<0.01
	知らない	255 78.2%	721 85.2%	1,169 92.9%	905 96.7%	3,050 90.6%	
nankr沖縄	知っている	65 19.9%	124 14.7%	91 7.2%	26 2.8%	306 9.1%	<0.01
	知らない	261 80.1%	722 85.3%	1,168 92.8%	910 97.2%	3,061 90.9%	

表7 年齢層別 ワクチン接種および PrEP に関する情報認知、経験

		29歳以下 n=326	30-39歳 n=846	40-49歳 n=1259	50歳以上 n=936	合計 n=3367	Pearson カイ2乗
次のうちいずれかのワクチン(予防接種)を受けたことがありますか。							
A型肝炎		55 16.9%	112 13.2%	67 5.3%	31 3.3%	265 7.9%	<0.01
B型肝炎		66 20.2%	111 13.1%	98 7.8%	75 8.0%	350 10.4%	<0.01
HPV(ヒトパピローマウイルス)		36 11.0%	52 6.1%	35 2.8%	8 0.9%	131 3.9%	<0.01
インフルエンザ		170 52.1%	525 62.1%	787 62.5%	563 60.1%	2,045 60.7%	0.01
麻疹・風疹		92 28.2%	358 42.3%	449 35.7%	324 34.6%	1,223 36.3%	<0.01
水ぼうそう		63 19.3%	305 36.1%	387 30.7%	304 32.5%	1,059 31.5%	<0.01
流行性耳下腺炎(ムンプス、おたふくかぜ)		39 12.0%	200 23.6%	266 21.1%	175 18.7%	680 20.2%	<0.01
わからない・覚えていない		32 9.8%	95 11.2%	141 11.2%	108 11.5%	376 11.2%	0.87
いずれもない		58 17.8%	119 14.1%	190 15.1%	163 17.4%	530 15.7%	0.16
「HIV感染予防のためのセックス前の服薬(PrEP)」や「HIVに感染したかもしれないときの予防服薬(PEP)」に関する情報について、知っていましたか。							
とてもよく知っている		101 31.0%	124 14.7%	109 8.7%	40 4.3%	374 11.1%	<0.01
具体的には知らないが、聞いたことはある		77 23.6%	235 27.8%	258 20.5%	173 18.5%	743 22.1%	
まったく知らなかった		148 45.4%	487 57.6%	892 70.8%	723 77.2%	2,250 66.8%	
友達や知り合い、セックスの相手で、HIV陰性者の中に「HIV感染予防のためのセックス前の服薬(PrEP)」をしている人はいると思いますか。							
いる		46 14.1%	73 8.6%	61 4.8%	21 2.2%	201 6.0%	<0.01
いると思う		63 19.3%	138 16.3%	122 9.7%	87 9.3%	410 12.2%	
いないと思う		98 30.1%	310 36.6%	445 35.3%	331 35.4%	1,184 35.2%	
いない		48 14.7%	111 13.1%	181 14.4%	133 14.2%	473 14.0%	
わからない		71 21.8%	214 25.3%	450 35.7%	364 38.9%	1,099 32.6%	
あなたは「HIV感染予防のためのセックス前の服薬(PrEP)」をしたいと思いますか。							
服薬したい		82 25.2%	148 17.5%	163 12.9%	100 10.7%	493 14.6%	<0.01
どちらかといえば、服薬したい		84 25.8%	279 33.0%	377 29.9%	275 29.4%	1,015 30.1%	
どちらかといえば、服薬したくない		102 31.3%	250 29.6%	367 29.2%	281 30.0%	1,000 29.7%	
服薬したくない		46 14.1%	155 18.3%	330 26.2%	264 28.2%	795 23.6%	
現在、治療で抗HIV薬の服薬治療を続けている		12 3.7%	14 1.7%	22 1.7%	16 1.7%	64 1.9%	
あなたは「HIV感染予防のためのセックス前の服薬(PrEP)」をしたことがありますか。							
過去に飲んだことがある		63 19.3%	97 11.5%	65 5.2%	30 3.2%	255 7.6%	<0.01
現在飲んでいる		34 10.4%	29 3.4%	26 2.1%	14 1.5%	103 3.1%	
一度も飲んだことがない		229 70.2%	720 85.1%	1,168 92.8%	892 95.3%	3,009 89.4%	

表8 年齢層別 HIV 抗体検査受検行動

	29歳以下 n=326		30-39歳 n=846		40-49歳 n=1259		50歳以上 n=936		合計 n=3367		Pearson カイ2乗
これまでに、HIV抗体検査(エイズ検査)を受けたことがありますか。											
ある	154	47.2%	366	43.3%	403	32.0%	289	30.9%	1,212	36.0%	<0.01
ない	172	52.8%	480	56.7%	856	68.0%	647	69.1%	2,155	64.0%	
これまでに受けた、HIV抗体検査(エイズ検査)の場所はどこですか。											
保健所の即日検査	74	22.7%	178	21.0%	185	14.7%	69	7.4%	506	15.0%	<0.01
保健所の夜間検査	52	16.0%	99	11.7%	58	4.6%	30	3.2%	239	7.1%	<0.01
保健所の即日・夜間検査以外	56	17.2%	88	10.4%	95	7.5%	55	5.9%	294	8.7%	<0.01
病院	51	15.6%	110	13.0%	116	9.2%	90	9.6%	367	10.9%	<0.01
クリニック・医院・診療所	25	7.7%	77	9.1%	54	4.3%	65	6.9%	221	6.6%	<0.01
郵送検査キット	17	5.2%	51	6.0%	30	2.4%	20	2.1%	118	3.5%	<0.01
その他	0	0.0%	2	0.2%	3	0.2%	15	1.6%	20	0.6%	<0.01
過去1年間に、HIV抗体検査(エイズ検査)を受けたことがありますか。											
ある	108	33.1%	212	25.1%	159	12.6%	104	11.1%	583	17.3%	<0.01
ない	46	14.1%	154	18.2%	244	19.4%	185	19.8%	629	18.7%	
これまでにない	172	52.8%	480	56.7%	856	68.0%	647	69.1%	2,155	64.0%	
過去1年間に受けた、HIV抗体検査(エイズ検査)の場所はどこですか。											
保健所の即日検査	54	16.6%	113	13.4%	77	6.1%	27	2.9%	271	8.0%	<0.01
保健所の夜間検査	48	14.7%	76	9.0%	45	3.6%	13	1.4%	182	5.4%	<0.01
保健所の即日・夜間検査以外	37	11.3%	44	5.2%	45	3.6%	16	1.7%	142	4.2%	<0.01
病院	27	8.3%	70	8.3%	36	2.9%	27	2.9%	160	4.8%	<0.01
クリニック・医院・診療所	16	4.9%	46	5.4%	18	1.4%	27	2.9%	107	3.2%	<0.01
郵送検査キット	18	5.5%	37	4.4%	16	1.3%	11	1.2%	82	2.4%	<0.01
その他	0	0.0%	1	0.1%	1	0.1%	1	0.1%	3	0.1%	<0.01
HIV抗体検査(エイズ検査)を受けなかった理由はどれにあてはまりますか。 ¹⁾											
結果を知るのが怖いから	14	8.1%	92	19.2%	115	13.4%	61	9.4%	282	13.1%	<0.01
HIVに感染している可能性がないから	48	27.9%	191	39.8%	415	48.5%	362	56.0%	1,016	47.1%	<0.01
曖昧なままにしておきたいから	8	4.7%	21	4.4%	38	4.4%	15	2.3%	82	3.8%	0.13
どこで検査を受けたら良いか分からないから	30	17.4%	101	21.0%	131	15.3%	67	10.4%	329	15.3%	<0.01
機会(時間や場所など)があわなかったから	26	15.1%	64	13.3%	145	16.9%	95	14.7%	330	15.3%	0.33
お金がかかるから	34	19.8%	98	20.4%	108	12.6%	53	8.2%	293	13.6%	<0.01
HIVに感染しているのではないかと疑われるから	6	3.5%	42	8.8%	54	6.3%	22	3.4%	124	5.8%	<0.01
面倒だから	56	32.6%	128	26.7%	226	26.4%	151	23.3%	561	26.0%	0.09
検査場所で知り合いに会う可能性があるから	23	13.4%	25	5.2%	50	5.8%	32	4.9%	130	6.0%	<0.01
その他	3	1.7%	3	0.6%	14	1.6%	16	2.5%	36	1.7%	0.12

1) これまでに、HIV抗体検査(エイズ検査)を受けたことがないと回答した2,155人を対象に分析した。

表9 年齢層別 HIV抗体検査に対する意識

	29歳以下 n=326	30-39歳 n=846	40-49歳 n=1259	50歳以上 n=936	合計 n=3367	Pearson カイ2乗
HIV抗体検査(エイズ検査)をより受けやすくするためにどのようなことが重要だと思いますか。_無料で検査を受けられる						
とても思う	188 57.7%	508 60.0%	774 61.5%	553 59.1%	2,023 60.1%	0.08
やや思う	90 27.6%	249 29.4%	346 27.5%	299 31.9%	984 29.2%	
あまりそう思わない	24 7.4%	54 6.4%	86 6.8%	49 5.2%	213 6.3%	
全くそう思わない	24 7.4%	35 4.1%	53 4.2%	35 3.7%	147 4.4%	
HIV抗体検査(エイズ検査)をより受けやすくするためにどのようなことが重要だと思いますか。_匿名で検査を受けられる						
とても思う	188 57.7%	494 58.4%	788 62.6%	559 59.7%	2,029 60.3%	<0.01
やや思う	95 29.1%	239 28.3%	304 24.1%	296 31.6%	934 27.7%	
あまりそう思わない	29 8.9%	75 8.9%	112 8.9%	50 5.3%	266 7.9%	
全くそう思わない	14 4.3%	38 4.5%	55 4.4%	31 3.3%	138 4.1%	
HIV抗体検査(エイズ検査)をより受けやすくするためにどのようなことが重要だと思いますか。_利便性の高い場所で検査を受けられる						
とても思う	162 49.7%	415 49.1%	646 51.3%	491 52.5%	1,714 50.9%	<0.01
やや思う	93 28.5%	299 35.3%	428 34.0%	336 35.9%	1,156 34.3%	
あまりそう思わない	57 17.5%	90 10.6%	141 11.2%	78 8.3%	366 10.9%	
全くそう思わない	14 4.3%	42 5.0%	44 3.5%	31 3.3%	131 3.9%	
HIV抗体検査(エイズ検査)をより受けやすくするためにどのようなことが重要だと思いますか。_他の性感染症と同時に検査を受けられる						
とても思う	164 50.3%	421 49.8%	625 49.6%	446 47.6%	1,656 49.2%	0.01
やや思う	90 27.6%	291 34.4%	413 32.8%	352 37.6%	1,146 34.0%	
あまりそう思わない	55 16.9%	86 10.2%	159 12.6%	92 9.8%	392 11.6%	
全くそう思わない	17 5.2%	48 5.7%	62 4.9%	46 4.9%	173 5.1%	
HIV抗体検査(エイズ検査)をより受けやすくするためにどのようなことが重要だと思いますか。_他の誰にも知られずに検査を受けられる						
とても思う	177 54.3%	479 56.6%	763 60.6%	556 59.4%	1,975 58.7%	<0.01
やや思う	86 26.4%	251 29.7%	321 25.5%	291 31.1%	949 28.2%	
あまりそう思わない	40 12.3%	77 9.1%	125 9.9%	63 6.7%	305 9.1%	
全くそう思わない	23 7.1%	39 4.6%	50 4.0%	26 2.8%	138 4.1%	
HIV抗体検査(エイズ検査)をより受けやすくするためにどのようなことが重要だと思いますか。_検査結果についてプライバシーが保護される						
とても思う	181 55.5%	498 58.9%	818 65.0%	606 64.7%	2,103 62.5%	<0.01
やや思う	82 25.2%	249 29.4%	281 22.3%	245 26.2%	857 25.5%	
あまりそう思わない	42 12.9%	68 8.0%	103 8.2%	59 6.3%	272 8.1%	
全くそう思わない	21 6.4%	31 3.7%	57 4.5%	26 2.8%	135 4.0%	
HIV抗体検査(エイズ検査)をより受けやすくするためにどのようなことが重要だと思いますか。_平日に受けられる検査の日や時間を拡大する						
とても思う	151 46.3%	438 51.8%	657 52.2%	487 52.0%	1,733 51.5%	0.04
やや思う	108 33.1%	280 33.1%	392 31.1%	330 35.3%	1,110 33.0%	
あまりそう思わない	50 15.3%	86 10.2%	141 11.2%	85 9.1%	362 10.8%	
全くそう思わない	17 5.2%	42 5.0%	69 5.5%	34 3.6%	162 4.8%	
HIV抗体検査(エイズ検査)をより受けやすくするためにどのようなことが重要だと思いますか。_夜間や休日に検査を受けられる日を増やす						
とても思う	176 54.0%	472 55.8%	686 54.5%	499 53.3%	1,833 54.4%	0.01
やや思う	92 28.2%	283 33.5%	412 32.7%	332 35.5%	1,119 33.2%	
あまりそう思わない	46 14.1%	58 6.9%	109 8.7%	75 8.0%	288 8.6%	
全くそう思わない	12 3.7%	33 3.9%	52 4.1%	30 3.2%	127 3.8%	

表10 年齢層別 HIV抗体検査・性感染症に対する意識①

	29歳以下 n=326		30-39歳 n=846		40-49歳 n=1259		50歳以上 n=936		合計 n=3367		Pearson カイ2乗
HIV感染症は、死に至る病であると感じる											
とてもそう思う	112	34.4%	270	31.9%	373	29.6%	239	25.5%	994	29.5%	0.01
ややそう思う	124	38.0%	341	40.3%	519	41.2%	401	42.8%	1,385	41.1%	
あまりそう思わない	78	23.9%	173	20.4%	259	20.6%	213	22.8%	723	21.5%	
全くそう思わない	12	3.7%	62	7.3%	108	8.6%	83	8.9%	265	7.9%	
エイズ発症をきっかけにHIVに感染していることがわかるより、検査で早めに感染していることがわかったほうがいいと思う											
とてもそう思う	169	51.8%	477	56.4%	713	56.6%	563	60.1%	1,922	57.1%	<0.01
ややそう思う	92	28.2%	269	31.8%	424	33.7%	289	30.9%	1,074	31.9%	
あまりそう思わない	52	16.0%	68	8.0%	73	5.8%	59	6.3%	252	7.5%	
全くそう思わない	13	4.0%	32	3.8%	49	3.9%	25	2.7%	119	3.5%	
HIVに感染しているかどうかは、ぎりぎりまであいまいなままにしておきたい											
とてもそう思う	67	20.6%	123	14.5%	113	9.0%	89	9.5%	392	11.6%	<0.01
ややそう思う	92	28.2%	199	23.5%	289	23.0%	157	16.8%	737	21.9%	
あまりそう思わない	94	28.8%	236	27.9%	366	29.1%	300	32.1%	996	29.6%	
全くそう思わない	73	22.4%	288	34.0%	491	39.0%	390	41.7%	1,242	36.9%	
健康を維持するためにHIV抗体検査(エイズ検査)は受けたほうがよいと思う											
とてもそう思う	126	38.7%	326	38.5%	467	37.1%	362	38.7%	1,281	38.0%	0.27
ややそう思う	132	40.5%	378	44.7%	561	44.6%	408	43.6%	1,479	43.9%	
あまりそう思わない	49	15.0%	115	13.6%	169	13.4%	137	14.6%	470	14.0%	
全くそう思わない	19	5.8%	27	3.2%	62	4.9%	29	3.1%	137	4.1%	
HIV抗体検査(エイズ検査)は予防に自信のないセックスをしたときに受けるべきだと思う											
とてもそう思う	123	37.7%	280	33.1%	421	33.4%	306	32.7%	1,130	33.6%	0.80
ややそう思う	126	38.7%	372	44.0%	530	42.1%	408	43.6%	1,436	42.6%	
あまりそう思わない	54	16.6%	139	16.4%	219	17.4%	166	17.7%	578	17.2%	
全くそう思わない	23	7.1%	55	6.5%	89	7.1%	56	6.0%	223	6.6%	
HIVに感染していても、自分は今と同じように働いたり、生活することができると思う											
とてもそう思う	93	28.5%	199	23.5%	264	21.0%	225	24.0%	781	23.2%	<0.01
ややそう思う	112	34.4%	337	39.8%	538	42.7%	412	44.0%	1,399	41.6%	
あまりそう思わない	85	26.1%	227	26.8%	319	25.3%	236	25.2%	867	25.7%	
全くそう思わない	36	11.0%	83	9.8%	138	11.0%	63	6.7%	320	9.5%	
HIVに感染したら、セックスをする前に、相手にそのことを伝えたいと思う											
とてもそう思う	144	44.2%	314	37.1%	486	38.6%	384	41.0%	1,328	39.4%	0.54
ややそう思う	107	32.8%	329	38.9%	472	37.5%	350	37.4%	1,258	37.4%	
あまりそう思わない	55	16.9%	152	18.0%	220	17.5%	148	15.8%	575	17.1%	
全くそう思わない	20	6.1%	51	6.0%	81	6.4%	54	5.8%	206	6.1%	
HIVに感染したら、恋愛や結婚はあきらめなければならないと思う											
とてもそう思う	80	24.5%	218	25.8%	293	23.3%	198	21.2%	789	23.4%	0.20
ややそう思う	130	39.9%	323	38.2%	501	39.8%	350	37.4%	1,304	38.7%	
あまりそう思わない	79	24.2%	218	25.8%	333	26.4%	290	31.0%	920	27.3%	
全くそう思わない	37	11.3%	87	10.3%	132	10.5%	98	10.5%	354	10.5%	
性感染症に感染すれば、自分自身を振り返って悪いことしたなと感じる											
とてもそう思う	120	36.8%	288	34.0%	372	29.5%	257	27.5%	1,037	30.8%	0.01
ややそう思う	124	38.0%	363	42.9%	584	46.4%	447	47.8%	1,518	45.1%	
あまりそう思わない	59	18.1%	141	16.7%	223	17.7%	184	19.7%	607	18.0%	
全くそう思わない	23	7.1%	54	6.4%	80	6.4%	48	5.1%	205	6.1%	
性感染症に感染すれば、セックスをする相手は見つけにくくなると思う											
とてもそう思う	137	42.0%	340	40.2%	542	43.1%	379	40.5%	1,398	41.5%	0.44
ややそう思う	113	34.7%	343	40.5%	485	38.5%	384	41.0%	1,325	39.4%	
あまりそう思わない	60	18.4%	120	14.2%	172	13.7%	128	13.7%	480	14.3%	
全くそう思わない	16	4.9%	43	5.1%	60	4.8%	45	4.8%	164	4.9%	
性感染症に感染すれば、友達と今までのようにはつきあえなくなると思う											
とてもそう思う	97	29.8%	197	23.3%	260	20.7%	157	16.8%	711	21.1%	<0.01
ややそう思う	113	34.7%	354	41.8%	524	41.6%	393	42.0%	1,384	41.1%	
あまりそう思わない	80	24.5%	220	26.0%	340	27.0%	282	30.1%	922	27.4%	
全くそう思わない	36	11.0%	75	8.9%	135	10.7%	104	11.1%	350	10.4%	
性感染症に感染したことが周りの友達に知られたら、嫌な印象を持たれると思う											
とてもそう思う	128	39.3%	319	37.7%	486	38.6%	366	39.1%	1,299	38.6%	0.53
ややそう思う	128	39.3%	390	46.1%	554	44.0%	402	42.9%	1,474	43.8%	
あまりそう思わない	47	14.4%	99	11.7%	160	12.7%	123	13.1%	429	12.7%	
全くそう思わない	23	7.1%	38	4.5%	59	4.7%	45	4.8%	165	4.9%	
HIVを持っている人はセックスをする前に、そのことを相手に話すべきだと思う											
とてもそう思う	157	48.2%	410	48.5%	658	52.3%	464	49.6%	1,689	50.2%	0.08
ややそう思う	108	33.1%	306	36.2%	415	33.0%	341	36.4%	1,170	34.7%	
あまりそう思わない	50	15.3%	95	11.2%	123	9.8%	96	10.3%	364	10.8%	
全くそう思わない	11	3.4%	35	4.1%	63	5.0%	35	3.7%	144	4.3%	

表 1 1 年齢層別 HIV 抗体検査・性感染症に対する意識②

	29歳以下 n=326	30-39歳 n=846	40-49歳 n=1259	50歳以上 n=936	合計 n=3367	Pearson カイ2乗					
自分の知り合いや友達の多くは、HIV抗体検査(エイズ検査)を定期的に受けることは良いことだと思っている											
とても思う	96	29.4%	238	28.1%	271	21.5%	196	20.9%	801	23.8%	<0.01
やや思う	135	41.4%	352	41.6%	565	44.9%	364	38.9%	1,416	42.1%	
あまりそう思わない	66	20.2%	194	22.9%	306	24.3%	299	31.9%	865	25.7%	
全くそう思わない	29	8.9%	62	7.3%	117	9.3%	77	8.2%	285	8.5%	
自分の知り合いや友達の多くは、HIV抗体検査(エイズ検査)を受けていると思う											
とても思う	66	20.2%	131	15.5%	130	10.3%	96	10.3%	423	12.6%	<0.01
やや思う	93	28.5%	225	26.6%	254	20.2%	152	16.2%	724	21.5%	
あまりそう思わない	112	34.4%	281	33.2%	497	39.5%	440	47.0%	1,330	39.5%	
全くそう思わない	55	16.9%	209	24.7%	378	30.0%	248	26.5%	890	26.4%	
自分の知り合いや友達の多くは、HIV抗体検査(エイズ検査)を受けるのが怖いと感じていると思う											
とても思う	74	22.7%	192	22.7%	215	17.1%	150	16.0%	631	18.7%	<0.01
やや思う	116	35.6%	369	43.6%	548	43.5%	347	37.1%	1,380	41.0%	
あまりそう思わない	93	28.5%	206	24.3%	363	28.8%	348	37.2%	1,010	30.0%	
全くそう思わない	43	13.2%	79	9.3%	133	10.6%	91	9.7%	346	10.3%	
自分の知り合いや友達の多くは、自分がHIV抗体検査(エイズ検査)を利用しているのを他人に知られたくないと思っていると思う											
とても思う	101	31.0%	275	32.5%	396	31.5%	284	30.3%	1,056	31.4%	0.77
やや思う	132	40.5%	373	44.1%	558	44.3%	424	45.3%	1,487	44.2%	
あまりそう思わない	65	19.9%	134	15.8%	212	16.8%	165	17.6%	576	17.1%	
全くそう思わない	28	8.6%	64	7.6%	93	7.4%	63	6.7%	248	7.4%	

表 1 2 年齢層別 HIV 抗体検査・性感染症に関する知識

	29歳以下 n=326	30-39歳 n=846	40-49歳 n=1259	50歳以上 n=936	合計 n=3367	Pearson カイ2乗					
最近、わが国のHIVの感染経路は性行為によるものが最も多い											
正しい	195	59.8%	625	73.9%	793	63.0%	583	62.3%	2,196	65.2%	<0.01
正しくない	44	13.5%	65	7.7%	142	11.3%	105	11.2%	356	10.6%	
わからない	87	26.7%	156	18.4%	324	25.7%	248	26.5%	815	24.2%	
HIV感染症は医療の進歩で、服薬を継続することでエイズ発症をコントロールできる病気となった											
正しい	167	51.2%	557	65.8%	817	64.9%	644	68.8%	2,185	64.9%	<0.01
正しくない	68	20.9%	104	12.3%	106	8.4%	73	7.8%	351	10.4%	
わからない	91	27.9%	185	21.9%	336	26.7%	219	23.4%	831	24.7%	
適切な治療を行えば、HIVに感染しても、感染していない人とはほぼ同じ寿命を生きることができると											
正しい	174	53.4%	519	61.3%	726	57.7%	581	62.1%	2,000	59.4%	<0.01
正しくない	57	17.5%	98	11.6%	146	11.6%	71	7.6%	372	11.0%	
わからない	95	29.1%	229	27.1%	387	30.7%	284	30.3%	995	29.6%	
適切に治療することにより、他の人へHIVを感染させる危険性をほぼ減らすことができる											
正しい	169	51.8%	487	57.6%	676	53.7%	578	61.8%	1,910	56.7%	<0.01
正しくない	61	18.7%	148	17.5%	185	14.7%	105	11.2%	499	14.8%	
わからない	96	29.4%	211	24.9%	398	31.6%	253	27.0%	958	28.5%	
HIV感染により免疫が低下すると、さまざまな性感染症(性病)や悪性腫瘍(がん)にかかりやすくなる											
正しい	186	57.1%	546	64.5%	756	60.0%	612	65.4%	2,100	62.4%	<0.01
正しくない	47	14.4%	82	9.7%	113	9.0%	65	6.9%	307	9.1%	
わからない	93	28.5%	218	25.8%	390	31.0%	259	27.7%	960	28.5%	
通常のHIV抗体検査(エイズ検査)では、HIVに感染してから2~3ヶ月経過しないと感染しているかどうかわからない											
正しい	148	45.4%	459	54.3%	609	48.4%	497	53.1%	1,713	50.9%	<0.01
正しくない	55	16.9%	109	12.9%	132	10.5%	93	9.9%	389	11.6%	
わからない	123	37.7%	278	32.9%	518	41.1%	346	37.0%	1,265	37.6%	
HIV即日検査や郵送検査キットでは感染していても陽性(感染している)と結果が出ることがある											
正しい	123	37.7%	393	46.5%	485	38.5%	356	38.0%	1,357	40.3%	<0.01
正しくない	64	19.6%	134	15.8%	116	9.2%	86	9.2%	400	11.9%	
わからない	139	42.6%	319	37.7%	658	52.3%	494	52.8%	1,610	47.8%	
HIV即日検査や郵送検査キットでは、検査結果を確認するため病院などで再度検査が必要になる場合がある											
正しい	171	52.5%	493	58.3%	647	51.4%	476	50.9%	1,787	53.1%	<0.01
正しくない	34	10.4%	78	9.2%	72	5.7%	53	5.7%	237	7.0%	
わからない	121	37.1%	275	32.5%	540	42.9%	407	43.5%	1,343	39.9%	
保健所では名前を言わずに無料でHIV抗体検査(エイズ検査)ができる											
正しい	179	54.9%	555	65.6%	819	65.1%	607	64.9%	2,160	64.2%	<0.01
正しくない	52	16.0%	76	9.0%	69	5.5%	46	4.9%	243	7.2%	
わからない	95	29.1%	215	25.4%	371	29.5%	283	30.2%	964	28.6%	
性感染症(性病)に感染していると、HIVに感染しやすくなる											
正しい	156	47.9%	454	53.7%	518	41.1%	366	39.1%	1,494	44.4%	<0.01
正しくない	59	18.1%	119	14.1%	184	14.6%	139	14.9%	501	14.9%	
わからない	111	34.0%	273	32.3%	557	44.2%	431	46.0%	1,372	40.7%	

2019年5月13日

厚生労働大臣
~~(国立医薬品食品衛生研究所長)~~ 殿
~~(国立保健医療科学院長)~~

機関名 大阪青山大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 久田 敏彦



次の職員の平成30年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 研究事業名 エイズ対策政策研究事業
- 研究課題名 MSMにおける予防啓発活動の評価手法の確立及びPDCAサイクル構築のための研究 (H30-エイズ一般-006)
- 研究者名 (所属部局・職名) 大阪青山大学 健康科学部 看護学科 ・ 講師
(氏名・フリガナ) 塩野 徳史 (シオノ サトシ)

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	大阪青山大学	<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

予防行動に関する量的データ収集および包括的分析からの評価

研究分担者：金子典代（名古屋市立大学看護学部 准教授）

研究協力者：塩野徳史（大阪青山大学健康科学部看護学科）、岩橋恒太（NPO 法人 akta）、東北；やろっこ/ZEL 首都圏；NPO 法人 akta/akta、横浜；NPO 法人 SHIP 東海；ANGEL LIFE NAGOYA/rise、近畿；MASH 大阪/dista、中国・四国；HaaT えひめ/BRIGE プロジェクト、沖縄；nankr 沖縄/mabui

研究要旨

本研究の目的は、全国のゲイバイセクシュアル男性における検査行動の実態とニーズを把握し、より効果的な検査促進プログラムの開発と検査促進プログラムの評価資料とすることである。本質問紙調査は、コミュニティセンターakta、コミュニティセンターZEL、コミュニティセンターrise、コミュニティセンターdista、コミュニティセンターmabui にて実施し、スタッフが来場者に調査目的と参加条件を説明し、アンケートを手渡しし回答を任意で依頼した。2019年2月から3月にかけて仙台ZELでは50件、東京aktaでは300件、大阪では200件、名古屋では100件、沖縄では50件の質問紙を準備し配布した。総計536件の有効回答を得た。基礎集計と初来場者、リピーターとに区分し、来場経験別の比較を行った。HIV感染予防や検査についての考えは、検査で早めにかかるメリットを感じているものは全体の99%であった。リピーターのほうが初来場者より、自分の知り合いや友達の多くが検査を受けていると感じているものが多く、HIVに感染しても就労や今まで通りの生活が可能と感じているものが多かった。HIV予防や検査の知識についてはTaSPについて90.1%が、治療薬の効果は78.8%が、即日検査の擬陽性は66.3%、ウィンドウピリオドは81.1%が正答していた。A型肝炎のワクチン接種の予防効果を知っているものは全体のうちの52.5%であった。本研究結果は、コミュニティセンターが果たしてきた機能の評価の基礎資料となる。また、初来場者を誘導するための方策や初来場者へのセンター内での対応についても考案する基礎資料となると考える。

A. 研究目的

本研究の目的は、全国のゲイバイセクシュアル男性における検査行動の実態とニーズを把握し、より効果的な検査促進プログラムの開発と検査促進プログラムの評価資料とする。

効果的な検査促進プログラムの開発、実施、評価には対象者の検査ニーズ把握、行動モニタリングが必須となる。本研究により全国のMSMのHIV検査行動など予防行動の実態、ニーズ、現行のプログラムの評価資料を得ることが可能となる。この成果をNPO akta やコミュ

ニティセンターを運営するやろっこ、エンジェルライフ名古屋、MASH 大阪、nankr といった各地域のNGOの予防行動促進や検査勧奨等のプログラムに反映させ評価資料としても活用することが期待できる。

B. 研究方法

本質問紙調査は、コミュニティセンターakta、コミュニティセンターZEL、コミュニティセンターrise、コミュニティセンターdista、コミュニティセンターmabui にて実施する。訓

練を受けたスタッフが来場者にアンケートを手渡しし、調査目的と参加条件を説明し、回答を依頼する。なお、スタッフへの訓練のプログラム内容は、研究者による本研究の概要の説明、対象者に説明する内容の説明、対象者への協力依頼について実演、また実際のロールプレイを含むものとする。回答した質問紙は会場内に設置した鍵付きの回収箱にて回収する。なお、回答済み質問紙の投函に対し、500 円の金券を配布する。

研究協力者と研究方法および調査内容を検討し、本研究は名古屋市立大学看護学部研究倫理審査委員会より承認を得た。

2019 年 2 月から 3 月にかけて調査を実施した。2018 年のセンターごとに来場者数実績をもとに、1 か月の想定来場人数を算定し、一斉に調査を実施した。必要最低限なサンプル数などをも鑑み、仙台 ZEL では 50 件、東京 akta では 300 件、大阪では 200 件、名古屋では 100 件、沖縄では 50 件の質問紙を準備し配布した。総計 536 件の有効回答を得て、分析を行った。

統計解析は SPSS ver21 により実施した。カテゴリ変数間の関連については回カイ二乗検定、または Fisher の直接検定により独立性、割合の差の検定を行った。

C. 研究結果

基礎集計は、表 1 のとおりである。来場曜日は週末が多く、次に木曜日が多かった。居住地は、幅広い都道府県の居住者からの回答があり、各センターが設置された都道府県の居住者が最も多かったが、センターが設置された都道府県外からも来場していた。性別については、女性は 8.8%であった。年齢は 30 歳代が最も多く、20-40 代が最も多い年齢層であった。職業は常勤についているものが 4 割であった。セクシュアリティはゲイが 70.7%、バイセクシュアルが 11.6%またその他のセクシュアルマイノリティも来場していた。センター来場経験は、初来場者が 20%であった。また来場したセンターで、性感染症やエ

イズの情報を得た経験は 49.6%であった。

来場経験別に分析した結果を表 2 に示す。初来場者のほうが、バイセクシュアルの割合が高く、年齢が低く、学生が多く、バイセクシュアルの割合が高かった。商業施設の利用はゲイバーやゲイナイト、サークルの利用は初来場者のほうが低かった。性行動は初来場者のほうが過去 6 か月にアナルセックスをした割合が高かった。

センターコンドームを受け取った経験は全体では 73%、センターで性感染症やエイズの情報を得た経験はスタッフから聞いたものは全体の 53%であった。またスタッフへ自身の悩み不安について相談した経験を持つものは全体のうち 27.6%であった。

HIV 検査経験は全体で 77.3%であり、リピーターのほうが高かった。

HIV 感染予防や検査についての考えは、検査で早めにわかるメリットを感じているものは 99%であった。リピーターのほうが初来場者より、自分の知り合いや友達の多くが検査を受けていると感じているものが多く、HIV に感染しても就労や今まで通りの生活が可能と感じているものが多かった。

知識については TaSP について 90.1%が、治療薬の効果は 78.8%が、即日検査の擬陽性は 66.3%、ウィンドウピリオドは 81.1%が正答していた。A 型肝炎のワクチン接種の予防効果を知っているものは全体のうちの 52.5%であった。

D. 考察

これまでに複数の男性同性愛者向けコミュニティセンターの来場者に対して一斉に実施した調査はなく、本調査は初めてコミュニティセンター来場者の特性を示すものとなった。概ね半数以上のセンター来場者はコミュニティペーパーや予防資材を受け取り、スタッフからも性感染症やエイズの情報を得ていた。来場者のうち 84%は、過去 6 か月にアナルセックス経験があり、初来場者において

も 80.8%は過去6か月にアナルセックスの経験を有しておりある程度性行動アクティブなものを受け入れる場所として機能していることが示唆された。リピーターはセンターにおいて HIV エイズの情報やコンドームなどの資料を入手しているのみならず、相談をスタッフにした経験、またセンター内で来場者に相談を行うなどピアサポートも行われていることが明らかとなった。

E. 結論

コミュニティセンターの来場者の特性を基礎属性、検査行動、性行動、HIV や検査に関する考え方、知識など複数の側面から明らかにすることができた。今後は来場経験のみならず、地域別、年齢別にも特性を分析を行っていく。本研究結果は、コミュニティセンターが果たしてきた機能の評価の基礎資料となる。また、初来場者を誘導するための方策や初来場者へのセンター内での対応についても考案する基礎資料となると考える。

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) ○塩野徳史, 市川誠一, 金子典代, 佐々木由理: 都市部保健所における HIV 抗体検査受検者の特性, 厚生指標,
- 2) ○金子典代, 塩野徳史, 本間隆之, 岩橋恒太, 健山正男, 市川誠一: 地方都市在住の MSM (Men who have sex with men) における調査時点までと過去1年の HIV 検査経験と関連要因. 日本エイズ学会誌, 2019, 21(1)

2. 学会発表

- 1) 荒木順子, 金子典代, 木南拓也, 藤原孝大, 阿部甚兵, 岩橋恒太, 高久道子, 本間隆之. akta 来場者における来場経験別の来場目的、HIV 検査行動、性行動、陽性者の身近さ. 第32回日本エイズ学会学術集会・総会, 2018, 大阪.

- 2) 岩橋恒太, 金子典代, 高野操, 岡慎一, 本間隆之, 健山正男, 市川誠一, 荒木順子, 木南拓也, 生島嗣, 佐藤郁夫, 福原寿弥, 林田庸総, 中山保世, 小日向弘雄, 今村顕史. MSM を対象とする、郵送検査手法を用いた新たな HIV 検査機会としての「HIVcheck.jp」の取り組み. 第32回日本エイズ学会学術集会・総会. 大阪, H30.12.2-4
- 3) ○本間隆之, 岩橋恒太, 金子典代, 高久道子, 荒木順子, 木南拓也, 阿部甚兵, 藤原孝大. MSM 向けクラブイベント来場者における HIV 検査未受検者の特性. 第32回日本エイズ学会学術集会・総会. 大阪, H30.12.2-4
- 4) 和田秀穂, 塩野徳史, 徳永博俊, 竹内麻子, 健山正男, 市川誠一, 金子典代: 中国四国地方におけるより感染リスクの高い MSM 層の実態把握と HIV 抗体検査受検経験に関するコミュニティアンケート調査. 第32回日本エイズ学会学術集会・総会. 大阪, H30.12.2-4.

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得
なし。
2. 実用新案登録
なし。
3. その他
なし。

表1.対象者の属性

	N	%
配布地域		
仙台	42	7.8
東京	226	42.2
大阪	200	37.3
名古屋	68	12.7
来場した曜日		
月曜日	91	17.0
木曜日	116	21.6
金曜日	84	15.7
土曜日	134	25.0
日曜日	111	20.7
居住地		
宮城県	34	6.3
東北その他	7	1.3
東京都	163	30.4
関東その他	67	12.5
愛知県	55	10.3
東海その他	13	2.4
大阪府	134	25.0
関西その他	55	10.3
中四国	4	.7
九州・沖縄	4	.8
性別		
男性	467	87.1
女性	47	8.8
その他	18	3.4
無回答	4	.7
年齢10歳刻み		
10代	13	2.4
20代	141	26.3
30代	173	32.3
40代	121	22.6
50代	57	10.6
60代	22	4.1
無回答	9	1.7

	N	%
あなたは、現在だれかと一緒に暮らしていますか？		
一人暮らし	256	47.8
親や兄弟・姉妹と同居	167	31.2
同性のパートナーと同居	59	11.0
同性の友達と同居	14	2.6
異性のパートナーと同居	24	4.5
異性の友達と同居	1	.2
その他	18	3.4
職業		
常勤(正規雇用)	233	43.5
常勤(非正規雇用)	48	9.0
パートタイマー	22	4.1
アルバイト	47	8.8
経営者	33	6.2
学生	60	11.2
その他	90	16.8
無回答	3	.6
セクシャリティ		
ゲイ(同性愛者)	379	70.7
バイセクシュアル(両性愛者)	62	11.6
ヘテロセクシュアル(異性愛者)	38	7.1
レズビアン(同性愛者)	13	2.4
わからない・決めたくない	18	3.4
その他	23	4.3
無回答	3	.6
センター来場経験		
過去6カ月以内に訪れた	337	62.9
過去6カ月より以前に訪れた	90	16.8
訪れたことはない(初来訪)	107	20.0
無回答	2	.4
センターでのペーパー、ゴム受け取り経験		
ある	360	67.2
ない	170	31.7
無回答	6	1.1
このセンターでスタッフから性感染症やエイズの情報を得た経験		
なし	270	50.4
あり	266	49.6

表2 センター来場経験別の特性(基礎属性)

	初来場者 N=71		リピーター N=400		合計 N=471		
性別							
男性	68	97.1%	383	96.2%	451	96.4%	.280
その他	2	2.9%	15	3.8%	17	3.6%	
セクシュアリティ							
ゲイ(同性愛者)	45	64.3%	334	83.9%	379	81.0%	.002
バイセクシュアル(両性愛者)	18	22.9%	40	10.1%	56	12.0%	
ヘテロセクシュアル(異性愛者)	1	1.4%	3	.8%	4	.9%	
わからない・決めたくない	3	4.3%	9	2.3%	12	2.6%	
その他	5	7.1%	12	3.0%	17	3.6%	
年齢3区分							
29歳未満	31	44.3%	107	26.8%	138	29.4%	.003
30-39歳	23	32.9%	126	31.5%	149	31.7%	
40歳以上	16	22.9%	159	39.8%	175	37.2%	
無回答	0	0.0%	8	2.0%	8	1.7%	
あなたは、現在だれかと一緒に暮らしていますか？							
一人暮らし	22	33.3%	209	52.1%	231	49.3%	.005
親や兄弟・姉妹と同居	30	41.7%	124	31.0%	154	32.6%	.078
同性のパートナー	6	8.3%	41	10.4%	47	10.1%	.677
同性の友達	1	1.4%	13	3.2%	14	2.9%	.705
異性のパートナー	5	6.9%	9	2.2%	14	2.9%	.046
異性の友達	1	1.4%	0	0.0%	1	.2%	.152
その他	5	6.9%	6	1.5%	11	2.3%	.015
職業							
常勤(正規雇用)	27	38.6%	177	44.6%	204	43.7%	.007
常勤(非正規雇用)	5	7.1%	40	10.1%	45	9.6%	
パートタイマー	3	4.3%	16	4.0%	19	4.1%	
アルバイト	8	11.4%	33	8.3%	41	8.8%	
経営者	4	5.7%	25	6.3%	29	6.2%	
学生	16	22.9%	36	9.1%	52	11.1%	
その他	7	10.0%	70	17.6%	77	16.5%	
セクシャリティ							
ゲイ(同性愛者)	45	64.3%	334	83.9%	379	81.0%	.002
バイセクシュアル(両性愛者)	16	22.9%	40	10.1%	56	12.0%	
ヘテロセクシュアル(異性愛者)	1	1.4%	3	.8%	4	.9%	
わからない・決めたくない	3	4.3%	9	2.3%	12	2.6%	
その他	5	7.1%	12	3.0%	17	3.6%	

表 2 センター来場経験別の特長(商業施設利用と性行動)

	初来場者 N=71		リピーター N=400		合計 N=471		
過去6カ月間利用したゲイ向け商業施設							
バー	36	51.4%	253	63.2%	289	61.5%	.064
ゲイナイト	10	14.3%	101	25.3%	111	23.6%	.048
シヨップ	14	20.0%	126	31.5%	140	29.8%	.065
ゲイサークル	4	5.7%	65	16.3%	69	14.7%	.018
ゲイ向け合コン	0	0.0%	8	2.0%	8	1.7%	.612
Twitter	28	40.0%	217	54.3%	245	52.1%	.037
PC出会い系サイト	8	11.4%	36	9.0%	44	9.4%	.507
携帯出会い系サイト	17	24.3%	75	18.8%	92	19.6%	.326
エロ系SNS	4	5.7%	31	7.8%	35	7.4%	.804
スマートフォンのゲイ向けアプリ	28	40.0%	204	51.0%	232	49.4%	.094
ゲイの乱交パーティー	0	0.0%	8	2.0%	8	1.7%	.612
有料のハッテン場	22	31.4%	129	32.3%	151	32.1%	1.000
野外のハッテン場	7	10.0%	23	5.8%	30	6.4%	.186
ハッテン場で有名な銭湯・プールなどの施設	10	14.3%	73	18.3%	83	17.7%	.499
いずれもない	7	10.0%	27	6.8%	34	7.2%	.321
これまでに男性とアナルセックスをしたことがありますか？							
ある	52	76.5%	340	85.9%	392	84.5%	.048
ない	16	23.5%	56	14.1%	72	15.5%	
一番最近にアナルセックスをしたのはいつですか？							
現在～過去6カ月間の間	40	80.0%	199	59.1%	239	61.8%	.009
過去6カ月間～過去1年間の間	1	2.0%	31	9.2%	32	8.3%	
1年以上前	4	8.0%	83	24.6%	87	22.5%	
覚えていない	5	10.0%	24	7.1%	29	7.5%	
一番最近にアナルセックスした相手はどれにあてはまりますか？							
彼氏や恋人	12	24.5%	107	32.0%	119	31.1%	.244
友達やセックスフレンド	19	38.8%	96	28.7%	115	30.0%	
その場限りの相手	14	28.6%	117	35.0%	131	34.2%	
その他	4	8.2%	14	4.2%	18	4.7%	
一番最近にアナルセックスした時、コンドームを使いましたか？							
使った	30	60.0%	223	66.6%	253	65.7%	.576
使わなかった	17	34.0%	90	26.9%	107	27.8%	
覚えていない	3	6.0%	22	6.6%	25	6.5%	
過去6カ月間に、相手からお金をもらって、セックスをしたことがありますか？							
ある	4	6.0%	11	2.8%	15	3.3%	.188
ない	63	94.0%	375	97.2%	438	96.7%	
過去6カ月間に、相手にお金を払って、セックスをしたことがありますか？							
ある	3	4.7%	18	4.8%	21	4.8%	.976
ない	61	95.3%	359	95.2%	420	95.2%	

表 2 センター来場経験別の特性(性感染症の既往とセンターでの資材や情報入手、相談)

	初来場者 N=71		リピーター N=400		合計 N=471		
性感染症の既往歴							
梅毒	3	4.3%	46	11.5%	49	10.4%	.089
チェックあり	2	2.9%	6	1.5%	8	1.7%	.348
B型肝炎	1	1.4%	29	7.3%	30	6.4%	.066
C型肝炎	1	1.4%	4	1.0%	5	1.1%	.562
クラミジア	3	4.3%	32	8.0%	35	7.4%	.333
尖圭コンジローマ	4	5.7%	17	4.3%	21	4.5%	.541
淋病	6	8.6%	26	6.5%	32	6.8%	.608
HIV感染症	4	5.7%	36	9.0%	40	8.5%	.489
赤痢アメーバ	0	0.0%	8	2.0%	8	1.7%	.614
毛じらみ	12	17.1%	98	24.5%	110	23.4%	.174
性器ヘルペス	0	0.0%	6	1.5%	6	1.3%	.597
その他	0	0.0%	5	1.3%	5	1.1%	1.000
いずれもなし	46	65.7%	217	54.3%	263	56.0%	.070
このセンターでペーパーやコンドームを受け取ったことはありますか？							
ある	8	11.4%	334	84.3%	342	73.4%	.000
ない	62	88.6%	62	15.7%	124	26.6%	
センターで性感染症やエイズの情報を得たことはありますか？							
(初来場者には来場時にアンケートを依頼しているため分析せず)							
センターのスタッフから聞いた			247	61.8%	251	53.4%	
センターに来て、利用者から聞いたことが			83	20.8%	83	17.7%	
センターに来て、友達から聞いたことがあ			66	16.5%	67	14.3%	
センターに来て、雑誌やネットで見たこと			178	44.5%	182	38.7%	
全くない			47	11.8%	105	22.3%	
これまでに、このセンターで自身の悩みや不安について相談したことはありますか？							
(初来場者には来場時にアンケートを依頼しているため分析せず)							
センターのスタッフに相談した			130	32.5%	131	27.9%	
センターに来て、利用者に相談した			48	12.0%	48	10.2%	
センターに来て、友達同士で相談した			75	18.8%	76	16.2%	
全くない			210	52.5%	276	58.7%	

表 2 センター来場経験別の特性(HIV 抗体検査行動)

	初来場者 N=71		リピーター N=400		合計 N=471		
これまでにHIV抗体検査(エイズ検査)を受けたことはありますか？							
ある	41	58.6%	321	81.1%	362	77.7%	.000
ない	29	41.4%	75	18.9%	104	22.3%	
これまでに何回HIV抗体検査(エイズ検査)を受けたことがありますか？							
1回だけ	19	47.5%	73	23.2%	92	26.0%	.012
2回	5	12.5%	55	17.5%	60	16.9%	
3回	4	10.0%	40	12.7%	44	12.4%	
4回以上	12	30.0%	146	46.5%	158	44.6%	
(検査経験者のみ) 一番最近にHIV検査(エイズ検査)を受けたのはいつですか？							
過去6カ月の間	11	28.2%	103	33.0%	114	32.5%	.929
過去6カ月以上前～過去1年の間	6	15.4%	40	12.8%	46	13.1%	
過去1年以上前～過去3年の間	13	33.3%	99	31.7%	112	31.9%	
過去3年以上前	9	23.1%	70	22.4%	79	22.5%	
(検査経験者のみ) 一番最近に受けたHIV検査の種類(場所)はどれですか？							
病院	9	23.1%	57	18.1%	66	18.6%	.112
診療所・クリニック・医院	6	15.4%	26	8.3%	32	9.0%	
保健所・保健センター	18	46.2%	97	30.8%	115	32.5%	
南新宿検査・相談室	3	7.7%	24	7.6%	27	7.6%	
shot CAST なんば	0	0.0%	13	4.1%	13	3.7%	
自宅/郵送検査(HIV検査キット)	1	2.6%	13	4.1%	14	4.0%	
その他	2	5.1%	85	27.4%	87	28.5%	

表2 センター来場経験別の特性(HIV 感染予防への考え)

	初来場者 N=71		リピーター N=400		合計 N=471		
エイズ発症をきっかけにHIVに感染していることがわかるより、検査で早めに感染していることがわかったほうが良いと思う							
とてもそう思う	61	88.4%	351	88.9%	412	88.8%	.030
ややそう思う	5	7.0%	42	10.6%	47	10.0%	
あまりそう思わない	2	2.8%	1	.3%	3	.6%	
全くそう思わない	1	1.4%	1	.3%	2	.4%	
HIVに感染しているかどうかは、ぎりぎりまであいまいなままにしておきたい							
とてもそう思う	1	1.4%	18	4.6%	19	4.1%	.353
ややそう思う	5	7.2%	48	12.2%	53	11.4%	
あまりそう思わない	21	30.4%	108	27.3%	129	27.8%	
全くそう思わない	42	60.9%	221	55.9%	263	56.7%	
自分の知り合いや友達のお多くはHIV抗体検査(エイズ検査)を定期的に受けることは良いことだと思っている							
とてもそう思う	42	60.9%	247	63.0%	289	62.7%	.177
ややそう思う	17	24.6%	110	28.1%	127	27.5%	
あまりそう思わない	7	10.1%	31	7.9%	38	8.2%	
全くそう思わない	3	4.3%	4	1.0%	7	1.5%	
自分の知り合いや友達のお多くはHIV抗体検査(エイズ検査)を受けていると思う							
とてもそう思う	8	11.6%	63	16.2%	71	15.5%	.001
ややそう思う	23	33.3%	162	41.6%	185	40.4%	
あまりそう思わない	25	36.2%	144	37.0%	169	36.9%	
全くそう思わない	13	18.8%	20	5.1%	33	7.2%	
自分の知り合いや友達のお多くは、自分がHIV抗体検査(エイズ検査)を受けているのを他人に知られたくないと思っていると思う							
とてもそう思う	22	32.4%	98	25.2%	120	26.3%	.331
ややそう思う	18	26.5%	144	37.0%	162	35.4%	
あまりそう思わない	20	29.4%	112	28.8%	132	28.9%	
全くそう思わない	8	11.8%	35	9.0%	43	9.4%	
HIVに感染していても、今と同じように働いたり、生活することができると思う							
とてもそう思う	21	31.3%	182	46.1%	203	43.9%	.003
ややそう思う	28	41.8%	141	35.7%	169	36.6%	
あまりそう思わない	10	14.9%	60	15.2%	70	15.2%	
全くそう思わない	8	11.9%	12	3.0%	20	4.3%	
HIVに感染すれば、セックスする相手は見つけにくくなると思う							
とてもそう思う	29	42.0%	132	33.3%	161	34.6%	.431
ややそう思う	29	42.0%	183	46.2%	212	45.6%	
あまりそう思わない	6	8.7%	55	13.9%	61	13.1%	
全くそう思わない	5	7.2%	26	6.6%	31	6.7%	
HIVに感染したら、恋愛や結婚はあきらめなければならないと思う							
とてもそう思う	8	11.6%	40	10.1%	48	10.3%	.524
ややそう思う	23	33.3%	101	25.6%	124	26.7%	
あまりそう思わない	21	30.4%	140	35.4%	161	34.7%	
全くそう思わない	17	24.6%	114	28.9%	131	28.2%	
HIVを持っている人はセックスする前に、そのことを相手に話すべきだと思う							
とてもそう思う	48	68.6%	215	54.8%	263	56.9%	.186
ややそう思う	13	18.6%	114	29.1%	127	27.5%	
あまりそう思わない	6	8.6%	45	11.5%	51	11.0%	
全くそう思わない	3	4.3%	18	4.6%	21	4.5%	

表 2 センター来場経験別の特性(知識)

	初来場者 N=71		リピーター N=400		合計 N=471		
知識1) HIV感染症は、適切に治療することにより、他の人へ感染させる危険性を減らすことができる							
知っている	58	84.1%	363	91.0%	421	90.0%	.185
知らない	6	8.7%	17	4.3%	23	4.9%	
わからない	5	7.2%	19	4.8%	24	5.1%	
知識2) HIV感染症は適切な治療を行えば、感染しても、感染していない人とほぼ同じ寿命を生きることができる							
知っている	41	59.4%	326	81.9%	367	78.6%	.000
知らない	16	23.2%	45	11.3%	61	13.1%	
わからない	12	17.4%	27	6.8%	39	8.4%	
知識3) HIV即日検査や郵送検査キットでは、検査結果を確認するため病院などで再度検査が必要になる場合がある。							
知っている	38	55.1%	270	68.4%	308	66.4%	.093
知らない	19	27.5%	80	20.3%	99	21.3%	
わからない	12	17.4%	45	11.4%	57	12.3%	
知識4) 通常のHIV抗体検査（エイズ検査）では、HIVに感染してから2～3カ月経過しないと感染しているかがわからない							
知っている	49	71.0%	331	83.4%	380	81.5%	.050
知らない	11	15.9%	37	9.3%	48	10.3%	
わからない	9	13.0%	29	7.3%	38	8.2%	
知識5) A型肝炎は、ワクチン接種により感染を予防できる							
知っている	34	49.3%	213	53.5%	247	52.9%	.570
知らない	25	36.2%	119	29.9%	144	30.8%	
わからない	10	14.5%	66	16.6%	76	16.3%	

平成31年3月12日

厚生労働大臣 殿

機関名 公立大学法人
名古屋市立大学
所属研究機関長 職名 理事長
氏名 郡 健二郎



次の職員の平成30年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 1. 研究事業名 エイズ対策政策研究事業
- 2. 研究課題名 MSMにおける予防啓発活動の評価手法の確立及びPDCAサイクル構築のための研究
(H30-エイズ-一般-006)
- 3. 研究者名 (所属部局・職名) 看護学部・准教授
(氏名・フリガナ) 金子典代・カネコノリヨ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	名古屋市立大学看護学部	<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

大阪の MSM における HIV 感染動向の把握に関する研究 大阪ゲイコホートの継続

研究代表者：塩野徳史（大阪青山大学 健康科学部看護学科 講師）
研究協力者：緒方江美、宮田りりい（公益財団法人エイズ予防財団/MASH 大阪）
宮階真紀、伴仲昭彦（公益財団法人エイズ予防財団/MASH 大阪）
大畑泰次郎（MASH 大阪） 鬼塚哲郎（京都産業大学文化学部/MASH 大阪）
松本健二（大阪市保健所感染症対策監）
半羽宏之（大阪市健康局医務監兼保健所感染症対策課長）
櫻井理恵、真木景子、山脇慎介（大阪市保健所感染症対策課）
岡本香子（保健衛生検査所）

研究要旨

大阪市と協働し、本年度は7回の HIV 抗体および梅毒抗原抗体検査会を実施した。うち1回は会場を移動させ、ゲイ向けクラブイベント会場で行った。会場内はスペースが狭く、コホートのシステムは含まずに、利便性を考え迅速検査で試行した。

2018年12月までの実施の概要について分析した。なお、HIV 陽性者については本検査会の確認検査を経て、新たに感染が判明した人の数である。2018年5月～12月までの受検者数は189人であり、HIV 陽性割合は0.5%、梅毒抗原陽性（要治療）割合は7.4%であった。

A. 研究目的

MSM 出生年代別にみた先行研究では AIDS 罹患率の推移は 1950 年代生まれ以外のいずれの年代でも増加傾向であった。近年では 1970 年代生まれや 1980 年代生まれでは感染拡大傾向は抑制されつつあるものの、出生年代層が若い群の方がより高く相対的に MSM 集団における感染拡大が示唆されている。特にゲイ向け商業施設利用者は性行動が活発であり、感染リスクの高い集団である。また MSM において梅毒は感染が増加していることも報告されており、MSM 対象の検査会での梅毒有病率は HIV 感染よりも高い。

MSM における HIV 感染や梅毒感染の状況を把握することは、今後の感染対策の方針の決定や予防啓発の評価尺度として極めて有効である。初年度は大阪のゲイ向け商業施設を中

心としたゲイコミュニティにおいて、血液検査と連動させた前向きコホートを構築することを目的とした。本報告では検査会利用者の属性について明らかにすることを通して、コミュニティセンターでの検査会の効果について検討する。

B. 研究方法

1) コホートの継続

本研究では対象者の個人特定には生体認証の技術(スワイプ式指紋認証システム)を応用したシステムによって、住所や氏名などの個人情報を取得することなくコホート集団を構築することとした。認証された指紋情報は、ソフトウェア (OmniPass) を活用し、暗号化した上で ID を発行する仕組みとした。対象者には口頭で説明し、同意を得た上で指紋情報

を登録してもらい、内蔵されたソフトウェアによって暗号化し、指紋情報と一致させた個別のIDを番号シールとして発行した。情報の保守性を考慮し、本研究で活用する機器端末は、インターネット接続されない仕組みとし、本年度は前回の検査日時も伝えられるよう、OSのバージョンアップを行った。

2) 分析方法

各回の受検者の属性について単純集計を行った。年齢はコミュニティセンター利用者と同様に、24歳以下、25歳-34歳、35歳以上の3区分の年齢層に分類した。質問項目は、年齢層、性別、居住形態、職業、セクシュアリティなどの基本属性と、過去6ヵ月間の商業施設などの利用状況、性感染症既往歴、性行動、検査行動、コミュニティセンターdistaの利用状況、本検査会における満足度とした。

本年度は2017年1月～2018年12月までの検査会利用者とコホート登録者を対象に分析を進めた。単純集計にはSPSS23を用いた。

なお、本調査は大阪青山大学倫理委員会の承認も得て実施した。

C. 研究結果

2018年12月までの実施の概要について表1、表2に示した。なお、HIV陽性者については本検査会の確認検査を経て、新たに感染が判明した人の数である。2018年5月～12月までの受検者数は189人であり、HIV陽性割合は0.5%、梅毒抗原陽性（要治療）割合は7.4%であった。月別の受検者アンケートの結果を表3～表7に示した。

また、これまで実施した検査会利用者では総受検者数は512人となり、指紋登録者数は357人となった。このうち2回目を受検しているものは69人であり、継続率19.3%となった。登録した357人の属性は、性的指向がゲイである人81.0%、過去6ヵ月間のゲイ向け商業施設利用割合79.0%、これまでの性感染症既往なしは54.1%であった。登録時点でHIV抗体検査が初受検であった人の割合は32.8%

であった。

表1 HIV抗体および梅毒抗原抗体検査会の概要①

実施月	5月	7月	9月	11月
受検者数	43人	27人	50人	29人
新規指紋登録者数(登録率)	20人 (64.5%)	12人 (66.7%)	19人 (48.7%)	10人 (55.6%)
結果受取	41人	25人	50人	28人
HIV陽性者(割合)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	1人 (2.0%)	0人 (0.0%)
梅毒抗原陽性者数(割合)	5人 (11.6%)	1人 (3.7%)	5人 (10.0%)	1人 (3.4%)
梅毒感染既往者数(割合)	2人 (4.7%)	4人 (14.8%)	5人 (10.0%)	6人 (20.7%)

表2 HIV抗体および梅毒抗原抗体検査会の概要②

実施月	12月*	1月	3月	計
受検者数	40人	集計中	集計中	189人
新規指紋登録者数(登録率)	実施せず	集計中	集計中	62人 (57.5%)
結果受取	40人	集計中	集計中	184人
HIV陽性者(割合)	0人 (0.0%)	集計中	集計中	1人 (0.5%)
梅毒抗原陽性者数(割合)	2人 (5.0%)	集計中	集計中	14人 (7.4%)
梅毒感染既往者数(割合)	2人 (5.0%)	集計中	集計中	19人 (10.1%)

*12月はHIV抗体検査および梅毒抗原抗体検査をゲイ向けクラブイベント会場にて迅速検査で実施。

D. 考察

本年度は前研究班の成果を受け、大阪市が事業化した初めての年度となった。受検者数は27人～50人であり、コミュニティにとっても定着化しつつあることが示される一方で、継続率は低く、コホート集団の分析にまで至っていない。12月に行ったイベント会場での検査会ではコミュニティセンターdistaの利用率が低く、新たな層に訴求したことが考えられる。彼らがハイリスク層であったかは詳細に検討していく必要があるが、こうした検査機会の可能性を示すことができた。

E. 結論

本年度は前研究班の成果を受け、大阪市が事業化した初めての年度となった。受検者数は27人～50人であり、コミュニティにとっても定着化しつつあることが示される一方で、継続率は低く、コホート集団の分析にまで至っていない。次年度も継続していくことで継続率が確保できると考えられる。HIV陽性判明者が少なく、ハイリスク層を取り込んでいるかも慎重に検討する必要がある。

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) ○塩野徳史, 市川誠一, 金子典代, 佐々木由理: 都市部保健所における HIV 抗体検査受検者の特性, 厚生の指標, 2018, 65(5): 35-42
- 2) ○金子典代, 塩野徳史, 本間隆之, 岩橋恒太, 健山正男, 市川誠一: 地方都市在住の MSM (Men who have sex with men) における調査時点までと過去1年の HIV 検査経験と関連要因. 日本エイズ学会誌, 2019, 21(1) (受理済).

2. 学会発表

- 1) ○塩野徳史 ゲイコミュニティにおける HIV 抗体検査—『これまで』と『これから』 シンポジウム 3 HIV 将来予測と流行阻止 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29. 11. 24-26
- 2) ○塩野徳史 HIV 検査の受検阻害要因としてのスティグマ シンポジウム 4 スティグマの払拭は誰が担うのか 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29. 11. 24-26

- 3) ○塩野徳史, 後藤大輔, 町 登志雄, 宮田りりい, 大畑泰次郎, 伴仲昭彦, 鬼塚哲郎, 市川誠一 商業施設を利用しはじめる若年層 MSM を対象とした予防啓発介入の開発と効果評価 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29. 11. 24-26
- 4) ○荒木順子, 金子典代, 木南拓也, 岩橋恒太, 佐久間久弘, 阿部甚兵, 大島 岳, 太田 貴, 石田敏彦, 塩野徳史, 新山 賢, 金城 健, 本間隆之, 市川誠一 akta で展開したセーフターセックスキャンペーンとコミュニティベース調査による効果評価 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29. 11. 24-26
- 5) ○宮田りりい, 塩野徳史, 後藤大輔, 町 登志雄, 大畑泰次郎, 市川誠一 MSM における性交相手との出会いの場所と方法一年齢層による差異について— 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29. 11. 24-26
- 6) ○塩野徳史, 後藤大輔, 町 登志雄, 宮田りりい MSM における検査行動に関する尺度開発とコミュニティセンターdista利用者の変化 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29. 11. 24-26
- 7) ○後藤大輔, 中村理恵, 宮田りりい, 塩野徳史 若年層向けの行政と連携した予防啓発方法の試み 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29. 11. 24-26
- 8) ○川畑拓也, 小島洋子, 森 治代, 駒野 淳, 岩佐 厚, 亀岡 博, 菅野展史, 近藤雅彦, 杉本賢治, 高田昌彦, 田端運久, 中村幸生, 古林敬一, 清田敦彦, 伏谷加奈子, 塩野徳史, 後藤大輔, 町 登志雄, 柴田敏之, 木下 優 大阪府における MSM 向け HIV/STI 検査相談事業・平成 28 年度実績報告 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29. 11. 24-26

- 9) ○Takaku Michiko, Dorjgotov Myagmardorj,
Gombo Erdenetuya, Galsanjamts
Nyampurev, Jagdagsuren Davaalkham,
Ichikawa Seiichi, Shiono Satoshi,
Kaneko Noriyo, Oka Shinichi Studies on
NGOs' HIV prevention interventions
targeting MSM community in Mongolia
The 31st Annual Meeting of the Japanese
Society for AIDS Research, Tokyo, Nov.
24-26, 2017
- 10) ○櫻井理恵, 真木景子, 浦林純江, 青木
理恵, 浅井千絵, 松本健二, 小向 潤,
植田英也, 半羽宏之, 松村直樹, 久保徹
朗, 安井典子, 塩野徳史, 市川誠一 保
健福祉センターにおける HIV 抗原抗体
検査受検者アンケートから見た MSM 対
策の評価 ワークショップ 3 検査・相談
体制 第 31 回日本エイズ学会学術集
会・総会 東京, H29. 11. 24-26
- 11) ○塩野徳史: U=U をめぐるメッセージと
予防啓発 第 32 回日本エイズ学会学術
集会・総会 シンポジウム 9 U=U 誰が何
をどう伝えるか: 陽性者の人権とステイ
グマゼロへの取り組みを視野に入れて
大阪, H30. 12. 2-
- 12) ○塩野徳史: 社会分野における予防指針
の課題 第 32 回日本エイズ学会学術集
会・総会 日本エイズ学会シンポジウム
エイズ予防指針改定の背景と課題 大阪,
H30. 12. 2-4

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

1. 特許取得
なし。
2. 実用新案登録
なし。
3. その他
なし。

表3 受検者の基本属性

	2017年度						2018年度						合計 n=266	PearsonX ² p値			
	1月		3月		5月		7月		9月		11月				12月		
	n=39	n=39	n=43	n=27	n=50	n=28	n=40										
居住地																	
大阪府	28	71.8%	30	76.9%	37	86.0%	17	63.0%	36	72.0%	23	82.1%	25	62.5%	196	73.7%	0.38
兵庫県	8	20.5%	4	10.3%	3	7.0%	3	11.1%	10	20.0%	4	14.3%	5	12.5%	37	13.9%	
京都府	1	2.6%	2	5.1%	1	2.3%	2	7.4%	3	6.0%	0	0.0%	4	10.0%	13	4.9%	
奈良県	0	0.0%	1	2.6%	1	2.3%	2	7.4%	1	2.0%	0	0.0%	2	5.0%	7	2.6%	
滋賀県	0	0.0%	2	5.1%	0	0.0%	1	3.7%	0	0.0%	1	3.6%	2	5.0%	6	2.3%	
和歌山県	0	0.0%	0	0.0%	1	2.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.4%	
その他	2	5.1%	0	0.0%	0	0.0%	2	7.4%	0	0.0%	0	0.0%	2	5.0%	6	2.3%	
★居住地																	
大阪府以外(無回答含む)	11	28.2%	9	23.1%	6	14.0%	10	37.0%	14	28.0%	5	17.9%	15	37.5%	70	26.3%	0.18
大阪府	28	71.8%	30	76.9%	37	86.0%	17	63.0%	36	72.0%	23	82.1%	25	62.5%	196	73.7%	
あなたの出身国は?																	
日本	0	0.0%	0	0.0%	37	86.0%	0	0.0%	34	68.0%	28	100.0%	0	0.0%	99	37.2%	-
海外	0	0.0%	0	0.0%	6	14.0%	0	0.0%	4	8.0%	0	0.0%	0	0.0%	10	3.8%	
項目なし	39	100.0%	39	100.0%	0	0.0%	27	100.0%	12	24.0%	0	0.0%	40	100.0%	157	59.0%	
★年齢層																	
24歳以下	8	20.5%	3	7.7%	3	7.0%	3	11.1%	3	6.0%	1	3.6%	7	17.5%	28	10.5%	0.54
25-34歳	14	35.9%	13	33.3%	13	30.2%	9	33.3%	15	30.0%	10	35.7%	13	32.5%	87	32.7%	
35-44歳	7	17.9%	9	23.1%	10	23.3%	4	14.8%	19	38.0%	7	25.0%	10	25.0%	66	24.8%	
45歳以上	6	15.4%	10	25.6%	11	25.6%	10	37.0%	11	22.0%	7	25.0%	8	20.0%	63	23.7%	
無回答	4	10.3%	4	10.3%	6	14.0%	1	3.7%	2	4.0%	3	10.7%	2	5.0%	22	8.3%	
★居住形態																	
同居(無回答含む)	12	30.8%	10	25.6%	17	39.5%	9	33.3%	22	44.0%	9	32.1%	18	45.0%	97	36.5%	0.48
独居	27	69.2%	29	74.4%	26	60.5%	18	66.7%	28	56.0%	19	67.9%	22	55.0%	169	63.5%	
★就業形態																	
常勤(非正規雇用)/経営者など	8	20.5%	14	35.9%	16	37.2%	10	37.0%	14	28.0%	12	42.9%	11	27.5%	85	32.0%	0.50
学生	5	12.8%	1	2.6%	4	9.3%	3	11.1%	2	4.0%	1	3.6%	5	12.5%	21	7.9%	
常勤(正規雇用)	26	66.7%	24	61.5%	23	53.5%	14	51.9%	34	68.0%	15	53.6%	24	60.0%	160	60.2%	

表4 過去6ヶ月間の商業施設利用およびHIV抗体検査受検行動

	2017年度						2018年度						合計 n=266	PearsonX ² p値			
	1月		3月		5月		7月		9月		11月				12月		
	n=39	n=39	n=43	n=27	n=50	n=28	n=40										
★性的指向																	
ゲイ以外(無回答含む)	11	28.2%	13	33.3%	9	20.9%	8	29.6%	12	24.0%	6	21.4%	10	25.0%	69	25.9%	0.88
ゲイ(同性愛者)	28	71.8%	26	66.7%	34	79.1%	19	70.4%	38	76.0%	22	78.6%	30	75.0%	197	74.1%	
★過去6カ月間の商業施設利用(バー・ナイト・シヨップ・有料)																	
なし(無回答含む)	13	33.3%	12	30.8%	11	25.6%	5	18.5%	9	18.0%	6	21.4%	9	22.5%	65	24.4%	0.62
あり	26	66.7%	27	69.2%	32	74.4%	22	81.5%	41	82.0%	22	78.6%	31	77.5%	201	75.6%	
★生涯HIV抗体検査受検経験																	
ない・無回答	11	28.2%	9	23.1%	5	11.6%	7	25.9%	6	12.0%	3	10.7%	11	27.5%	52	19.5%	0.15
あり	28	71.8%	30	76.9%	38	88.4%	20	74.1%	44	88.0%	25	89.3%	29	72.5%	214	80.5%	
これまで何回HIV抗体検査(エイズ検査)を受けたことがありますか?																	
ない・無回答	11	28.2%	9	23.1%	5	11.6%	7	25.9%	6	12.0%	3	10.7%	11	27.5%	52	19.5%	0.11
1回・2回	9	23.1%	9	23.1%	15	34.9%	1	3.7%	17	34.0%	7	25.0%	8	20.0%	66	24.8%	
3回以上ある	19	48.7%	21	53.8%	23	53.5%	19	70.4%	27	54.0%	18	64.3%	21	52.5%	148	55.6%	
一番最近にHIV検査(エイズ検査)を受けたのはいつですか?																	
過去6カ月間	15	38.5%	13	33.3%	15	34.9%	11	40.7%	18	36.0%	10	35.7%	10	25.0%	92	34.6%	0.41
過去6カ月以上前～過去1年	5	12.8%	8	20.5%	6	14.0%	5	18.5%	8	16.0%	8	28.6%	8	20.0%	48	18.0%	
過去1年以上前～過去3年	6	15.4%	5	12.8%	9	20.9%	3	11.1%	11	22.0%	1	3.6%	3	7.5%	38	14.3%	
過去3年以上前	1	2.6%	2	5.1%	7	16.3%	0	0.0%	5	10.0%	5	17.9%	5	12.5%	25	9.4%	
未受検	11	28.2%	9	23.1%	5	11.6%	7	25.9%	6	12.0%	3	10.7%	11	27.5%	52	19.5%	
無回答	1	2.6%	2	5.1%	1	2.3%	1	3.7%	2	4.0%	1	3.6%	3	7.5%	11	4.1%	

表5 性感染症既往およびコミュニティセンターdista 利用

	2017年度				2018年度								合計 n=266	PearsonX ² p値			
	1月		3月		5月		7月		9月		11月				12月		
	n=39	n=39	n=43	n=27	n=50	n=28	n=40										
これまでにかかったことがある性感染症はありますか？																	
梅毒	2	5.1%	5	12.8%	1	2.3%	4	14.8%	6	12.0%	6	21.4%	2	5.0%	26	9.8%	0.09
A型肝炎	0	0.0%	0	0.0%	1	2.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.6%	0	0.0%	2	0.8%	0.34
B型肝炎	4	10.3%	0	0.0%	2	4.7%	1	3.7%	3	6.0%	0	0.0%	2	5.0%	12	4.5%	0.27
C型肝炎	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
クラミジア	0	0.0%	5	12.8%	4	9.3%	4	14.8%	3	6.0%	4	14.3%	3	7.5%	23	8.6%	0.22
尖圭コンジローマ	2	5.1%	3	7.7%	3	7.0%	3	11.1%	2	4.0%	5	17.9%	3	7.5%	21	7.9%	0.34
淋病	0	0.0%	2	5.1%	3	7.0%	1	3.7%	2	4.0%	1	3.6%	2	5.0%	11	4.1%	0.59
HIV感染症	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
赤痢アメーバ	0	0.0%	1	2.6%	2	4.7%	1	3.7%	1	2.0%	1	3.6%	0	0.0%	6	2.3%	0.51
毛じらみ	5	12.8%	8	20.5%	10	23.3%	6	22.2%	10	20.0%	11	39.3%	7	17.5%	57	21.4%	0.24
性器ヘルペス	0	0.0%	1	2.6%	1	2.3%	1	3.7%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.5%	4	1.5%	0.51
その他	1	2.6%	1	2.6%	0	0.0%	0	0.0%	2	4.0%	1	3.6%	1	2.5%	6	2.3%	0.60
いずれもない	27	69.2%	19	48.7%	24	55.8%	10	37.0%	27	54.0%	10	35.7%	23	57.5%	140	52.6%	0.08
今日を除いて、これまでにdista(ディスタ)を訪れたことがありますか？																	
過去6か月以内に訪れた	23	59.0%	16	41.0%	13	30.2%	12	44.4%	23	46.0%	15	53.6%	13	32.5%	115	43.2%	0.01
過去6か月より以前に訪れた	6	15.4%	15	38.5%	11	25.6%	5	18.5%	10	20.0%	9	32.1%	8	20.0%	64	24.1%	
訪れたことはない	10	25.6%	8	20.5%	19	44.2%	7	25.9%	15	30.0%	4	14.3%	17	42.5%	80	30.1%	
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	11.1%	2	4.0%	0	0.0%	2	5.0%	7	2.6%	
「distaでピタツとちえっくん」についてお伺いします。今後も利用したいと思いますか？理由もあわせてお答えください。																	
また利用したい	35	89.7%	38	97.4%	41	95.3%	24	88.9%	48	96.0%	25	89.3%	39	97.5%	250	94.0%	0.56
もう利用したくない	1	2.6%	0	0.0%	1	2.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.8%	
無回答	3	7.7%	1	2.6%	1	2.3%	3	11.1%	2	4.0%	3	10.7%	1	2.5%	14	5.3%	

表6 性行動

	2017年度				2018年度							合計 n=266	PearsonX ² p値				
	1月		3月		5月		7月		9月		11月			12月			
	n=39	n=39	n=43	n=27	n=50	n=28	n=40										
過去6カ月間に、相手からお金をもらって、セックスをしたことがありますか？																	
ある	0	0.0%	0	0.0%	1	2.3%	0	0.0%	3	6.0%	1	3.6%	0	0.0%	5	1.9%	-
ない	0	0.0%	0	0.0%	41	95.3%	24	88.9%	44	88.0%	27	96.4%	33	82.5%	169	63.5%	
無回答	0	0.0%	0	0.0%	1	2.3%	3	11.1%	3	6.0%	0	0.0%	7	17.5%	14	5.3%	
項目なし	39	100.0%	39	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	78	29.3%	
過去6カ月間に、相手にお金を払って、セックスをしたことがありますか？																	
ある	0	0.0%	0	0.0%	3	7.0%	0	0.0%	2	4.0%	3	10.7%	1	2.5%	9	3.4%	-
ない	0	0.0%	0	0.0%	40	93.0%	24	88.9%	45	90.0%	25	89.3%	31	77.5%	165	62.0%	
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	11.1%	3	6.0%	0	0.0%	8	20.0%	14	5.3%	
項目なし	39	100.0%	39	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	78	29.3%	
これまでに男性とアナルセックスをしたことがありますか？																	
ある	38	97.4%	35	89.7%	39	90.7%	24	88.9%	45	90.0%	27	96.4%	33	82.5%	241	90.6%	0.07
ない	1	2.6%	4	10.3%	4	9.3%	1	3.7%	4	8.0%	1	3.6%	7	17.5%	22	8.3%	
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	7.4%	1	2.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	1.1%	
★一番最近にアナルセックスをしたのはいつですか？ *1																	
過去6カ月の間	25	65.8%	28	80.0%	30	76.9%	21	87.5%	32	71.1%	21	77.8%	27	81.8%	184	76.3%	0.48
過去6カ月より以前	13	34.2%	7	20.0%	9	23.1%	3	12.5%	13	28.9%	6	22.2%	6	18.2%	57	23.7%	
一番最近にアナルセックスした相手はどれにあてはまりますか？ *1																	
彼氏や恋人	7	18.4%	7	20.0%	8	20.5%	5	20.8%	11	24.4%	3	11.1%	5	15.2%	46	19.1%	0.26
友達やセクフレ	13	34.2%	16	45.7%	14	35.9%	8	33.3%	20	44.4%	14	51.9%	15	45.5%	100	41.5%	
その場限りの相手	18	47.4%	12	34.3%	14	35.9%	11	45.8%	14	31.1%	10	37.0%	12	36.4%	91	37.8%	
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.0%	1	0.4%	
無回答	0	0.0%	0	0.0%	3	7.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	1.2%	
★一番最近のアナルセックス時のコンドーム使用状況 *1																	
不使用(無回答含む)	10	26.3%	19	54.3%	12	30.8%	9	37.5%	17	37.8%	10	37.0%	8	24.2%	85	35.3%	0.16
使用	28	73.7%	16	45.7%	27	69.2%	15	62.5%	28	62.2%	17	63.0%	25	75.8%	156	64.7%	

表7 検査会の満足度

	2017年度				2018年度								合計 n=266	PearsonX ² p値			
	1月		3月		5月		7月		9月		11月				12月		
	n=39	n=39	n=43	n=27	n=50	n=28	n=40										
1) 話し方・言葉づかいはどうでしたか?																	
とても満足	33	84.6%	36	92.3%	36	83.7%	24	88.9%	46	92.0%	27	96.4%	33	82.5%	235	88.3%	0.33
やや満足	5	12.8%	3	7.7%	6	14.0%	2	7.4%	3	6.0%	1	3.6%	4	10.0%	24	9.0%	
とても不満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.4%	
無回答	1	2.6%	0	0.0%	1	2.3%	0	0.0%	1	2.0%	0	0.0%	3	7.5%	6	2.3%	
2) 質問しやすい雰囲気についてはどうでしたか?																	
とても満足	33	84.6%	34	87.2%	33	76.7%	24	88.9%	44	88.0%	26	92.9%	29	72.5%	223	83.8%	0.24
やや満足	5	12.8%	4	10.3%	9	20.9%	2	7.4%	5	10.0%	2	7.1%	8	20.0%	35	13.2%	
やや不満	0	0.0%	1	2.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.4%	
とても不満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.4%	
無回答	1	2.6%	0	0.0%	1	2.3%	0	0.0%	1	2.0%	0	0.0%	3	7.5%	6	2.3%	
3) 安心できる雰囲気についてはどうでしたか?																	
とても満足	32	82.1%	34	87.2%	32	74.4%	23	85.2%	44	88.0%	23	82.1%	28	70.0%	216	81.2%	0.25
やや満足	6	15.4%	5	12.8%	8	18.6%	3	11.1%	4	8.0%	5	17.9%	9	22.5%	40	15.0%	
やや不満	0	0.0%	0	0.0%	2	4.7%	0	0.0%	1	2.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	1.1%	
とても不満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.4%	
無回答	1	2.6%	0	0.0%	1	2.3%	0	0.0%	1	2.0%	0	0.0%	3	7.5%	6	2.3%	
4) プライバシー保護についてはどうでしたか?																	
とても満足	29	74.4%	26	66.7%	26	60.5%	22	81.5%	36	72.0%	18	64.3%	24	60.0%	181	68.0%	0.36
やや満足	7	17.9%	10	25.6%	11	25.6%	3	11.1%	10	20.0%	9	32.1%	8	20.0%	58	21.8%	
やや不満	2	5.1%	3	7.7%	5	11.6%	1	3.7%	3	6.0%	0	0.0%	5	12.5%	19	7.1%	
とても不満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.7%	0	0.0%	1	3.6%	0	0.0%	2	0.8%	
無回答	1	2.6%	0	0.0%	1	2.3%	0	0.0%	1	2.0%	0	0.0%	3	7.5%	6	2.3%	

2019年5月13日

厚生労働大臣
~~(国立医薬品食品衛生研究所長)~~ 殿
~~(国立保健医療科学院長)~~

機関名 大阪青山大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 久田 敏彦



次の職員の平成30年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 研究事業名 エイズ対策政策研究事業
- 研究課題名 MSMにおける予防啓発活動の評価手法の確立及びPDCAサイクル構築のための研究
(H30-エイズ一般-006)
- 研究者名 (所属部局・職名) 大阪青山大学 健康科学部 看護学科 ・ 講師
(氏名・フリガナ) 塩野 徳史 (シオノ サトシ)

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	大阪青山大学	<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

沖縄に流入する外国人 MSM の予防行動に関する研究

研究分担者：健山正男（琉球大学大学院医学研究科 准教授）

研究協力者：nankr 沖縄

研究要旨

本研究の目的は、国内外からのツーリストが多い沖縄県において、沖縄県を訪れる外国籍 MSM の感染リスク行動を明らかにするための多言語対応の MSM 向け HIV 感染リスク行動調査の質問紙を作成することである。過去の MSM を対象にコミュニティベースで実施されてきたアンケート項目をすべて収集し、外国籍 MSM に対して尋ねるべき項目を選択する作業を実施した。

日本における外国籍 MSM における新規 HIV 感染者、新規 AIDS 患者報告数は近年増加しており、日本を訪問する外国籍 MSM の実態把握、予防行動の実態把握と対策の考案は急務である。今年度は、外国籍 MSM が回答可能な多言語アンケートシステムの構築を行った。またアジア圏の来日者の急増も鑑み、中国語でも回答可能なアンケートを構築した。次年度は調査を実施し、実態の解明につなげる。

A. 研究目的

本研究の目的は、国内外からのツーリストが多い沖縄県において、沖縄県を訪れる外国籍 MSM の感染リスク行動を明らかにするための多言語対応の MSM 向け HIV 感染リスク行動調査の質問紙を作成することである。

B. 研究方法および結果

過去の MSM を対象にコミュニティベースで実施されてきたアンケート項目をすべて収集し、外国籍 MSM に対して尋ねるべき項目を選択する作業を実施した。性指向、出身国、年齢、職業、などの基礎項目、過去 6 か月に使用したゲイ向け商業施設、生涯や過去 1 年の HIV 検査行動、性行動など 25 問である。アンケートの依頼文、質問項目については、英語版のみならず、中国語版も作成し、多言語に対応したものとした。質問項目一覧は資料 1 のとおりである。

D. 考察

日本における外国籍 MSM における新規 HIV 感染者、新規 AIDS 患者報告数は近年増加しており、日本を訪問する外国籍 MSM の実態把握、予防行動の実態把握と対策の考案は急務である。沖縄県は、MSM 向けツーリズムの受け入れ先として人気が高く、多くの日本国籍 MSM が沖縄県を訪問している実態を H27, H28 年度に実施した研究で示した。しかし、沖縄県を訪れる MSM の実態は一切わかっていない。2018 年の暦年（1～12 月）の入域観光客数が前年比 4・7%増（44 万 6200 人増）の 984 万 2400 人になったと発表した。台風や麻疹（はしか）の影響で前年割れの月があったものの、6 年連続で過去最高を更新した。国籍別にみると、台湾が 13・0%増の 88 万 9700 人、韓国が 6・2%増の 55 万 5500 人、中国が 25・5%増の 63 万 2400 人となっており、近隣アジア国からの観光客が多いことが想定される。2019 年は今年度開発、作成したアンケートシステムを活用し、沖縄に滞在する外国籍 MSM の実態調査につなぐ。

E. 結論

日本における外国籍 MSM における新規 HIV 感染者、新規 AIDS 患者報告数は近年増加しており、日本を訪問する外国籍 MSM の実態把握、予防行動の実態把握と対策の考案は急務である。今年度は、外国籍 MSM が回答可能な多言語アンケートシステムの構築を行った。またアジア圏の来日者の急増も鑑み、中国語でも回答可能なアンケートを構築した。次年度は調査を実施し、実態の解明につなげる。

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) 金子典代, 塩野徳史, 本間隆之, 岩橋恒太, 健山正男, 市川誠一: 地方都市在住の MSM (Men who have sex with men) における調査時点までと過去1年の HIV 検査経験と関連要因. 日本エイズ学会誌, 2019, 21(1)
- 2) Kami-Onaga K, Tateyama M, Kinjo T, Parrott G, Tominaga D, Takahashi-Nakazato A, et al. Comparison of two screening tests for HIV-Associated Neurocognitive Disorder suspected Japanese patients with respect to cART usage. PloS one. 2018;13(6)

2. 学会発表

- 1) 和田秀穂, 塩野徳史, 徳永博俊, 竹内麻子, 健山正男, 市川誠一, 金子典代: 中国四国地方におけるより感染リスクの高い MSM 層の実態把握と HIV 抗体検査受検経験に関するコミュニティアンケート調査, 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4
- 2) 岩橋恒太, 金子典代, 高野操, 岡慎一, 本間隆之, 健山正男, 市川誠一, 荒木順子, 木南拓也, 高久道子, 生島嗣, 佐藤郁夫, 福原寿弥, 林田庸総, 中山保世, 小日向弘雄, 今村顕史: MSM を対象とする、郵送検査

手法を用いた新たな HIV 検査機会としての「HIVcheck.jp」の取り組み. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4

- 3) 宮城京子, 豊里竹彦, 前田サオリ, 健山正男, 大嶺千代美, 藤田次郎: 沖縄県内訪問看護師の HIV 感染患者の受け入れ意識に関連する要因の検討. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4
- 4) 上薫, 健山正男, 金城武士, Parrott Gretchen, 富永大介, 高橋愛, 仲村秀太, 宮城京子, 前田サオリ, 藤田次郎: 日本人における、2つの HIV 関連認知機能障害スクリーニング検査の cART 非投与群と投与群の比較. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4
- 5) 岡崎玲子, 蜂谷敦子, 佐藤かおり, 豊嶋崇徳, 佐々木 悟, 伊藤俊広, 林田庸総, 岡 慎一, 湯永博之, 古賀道子, 長島真美, 貞升健志, 近藤真規子, 椎野禎一郎, 須藤弘二, 加藤真吾, 谷口俊文, 猪狩英俊, 寒川 整, 加藤英明, 石ヶ坪良明, 中島秀明, 吉野友祐, 太田康男, 茂呂寛, 渡邊珠代, 松田昌和, 重見 麗, 岩谷靖雅, 横幕能行, 渡邊 大, 小島洋子, 森 治代, 藤井輝久, 高田清式, 南 留美, 山本政弘, 松下修三, 健山正男, 藤田次郎, 杉浦 互, 吉村和久, 菊池 正: 国内新規 HIV/AIDS 診断症例における薬剤耐性 HIV-1 の動向. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4
- 6) 笠島志穂, 山城朋子, 健山正男, 仲村秀太, 山入端一貴, 兼久 梢, 新垣若子, 鍋谷大二郎, 藤田次郎: 上気道閉塞のリスクを有するカポジ肉腫の治療経験症例. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4
- 7) 上原 仁, 諸見牧子, 与那覇房子, 外間惟夫, 前田サオリ, 宮城京子, 石郷岡美穂, 大城市子, 辺士名優美子, 上 薫, 仲村秀太, 中村克徳, 健山正男, 藤田次郎: 腸瘻からの cART 投与において血中濃度測定を行い用量調整した一例. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4

- 8) 西原一秀, 平野惣大, 健山正男, 前田サオリ, 宮城京子, 藤田次郎, 新崎 彰 : 沖縄県歯科医療従事者の HIV/AIDS 患者歯科診療に対するアンケート調査の検討. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4
- 9) 健山正男 : 沖縄県における HIV の現況.
九州医師連合会 HIV 医療講演会 2018
- 10) 兼久 梢, 健山正男, 鍋谷大二郎, 喜友名朋, 新里 彰, 新垣若子, 宮城一也, 原永修作, 藤田次郎 : 免疫再構築に伴う病変増大が疑われた HIV 関連トキソプラズマ脳症の一例. 第 92 回日本感染症学会学術集会 2018. 6. 1 感染症学雑誌 92 357 2018
- 11) 原永修作, 西山直哉, 鍋谷大二郎, 金城武士, 宮城一也, 健山正男, 藤田次郎 : 男性同性愛者に発症し化膿性扁桃炎として診断・治療された扁桃梅毒の 1 例と case review. 第 92 回日本感染症学会学術集会 2018. 6. 1 感染症学雑誌 92 284 2018
- 12) 石原美紀, 健山正男, 渡嘉敷良乃, 鍋谷大二郎, 金城武士, 宮城一也, 藤田次郎 : HIV 新規診断症例においてインテグラーゼ領域に P145S を検出した一例. 第 92 回日本感染症学会学術集会 2018. 6. 1 感染症学雑誌 92 375 2018

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得
なし。
2. 実用新案登録
なし。
3. その他
なし。

性の健康に関するアンケート

あなたのことや、日本での生活のことをおたずねします

Q1 あなたの年齢を教えてください。*

Q2 あなたの性別は？*

- 1 男性
- 2 女性
- 3 その他

Q3 あなたは以下のどれにあてはまりますか？(当てはまるものすべてを選んでください)*

- 1 ゲイ
- 2 レズビアン
- 3 バイセクシュアル
- 4 クィア
- 5 トランスジェンダー
- 6 ヘテロセクシュアル
- 7 その他

Q4 あなたの国籍を教えてください。ローマ字で国籍を入力してください。*

Q5 あなたは現在働いていますか？*

- 1 正規雇用で働いている
- 2 パートタイムで働いている
- 3 働いていない

Q6 あなたは、今結婚していますか？*

- 1 結婚していない
- 2 結婚していないが、一緒に生活しているパートナーがいる
- 3 結婚している

Q7 日本に来た目的を教えてください。*

- 1 日本で生まれ育った
- 2 留学、研修など
- 3 仕事で
- 4 旅行で
- 5 その他

Q8 あなたは日本にどれぐらい滞在していますか？通算した期間をお答えください。*

- 1 1週間以内
- 2 1か月未満
- 3 1か月～3か月
- 4 3か月～1年
- 5 1年～5年
- 6 5年～10年
- 7 10年以上

Q9 日本では、どの都道府県に滞在していますか(住んでいますか)？スクロールバーからあてはまる都道府県を選んでください。*

▼選択して下さい▼

Q10 あなたは、日本で、以下の施設やサービスを利用したことがありますか？次の中から選んでください(当てはまるものすべてを選んでください) *

- 1 バー
- 2 クラブ・パーティ
- 3 銭湯・サウナ
- 4 Tinder
- 5 Grindr
- 6 Jackd
- 7 9monsters
- 8 SCRUFF
- 9 Hornet
- 10 BODY RUSH
- 11 KO-MENS.TV
- 12 BIG-MEN
- 0 どれも利用したことはない

Q11 あなたは日本語を読むことができますか？ *

- 1 よくできる
- 2 まあまあできる
- 3 まったくできない

Q12 あなたは日本語を話すことができますか？ *

- 1 よくできる
- 2 まあまあできる
- 3 まったくできない

[次へ](#)

※このページはSSLによって暗号化されています。

性の健康に関するアンケート

エイズや性感染症に関連したことをおたずねします

Q13 あなたは、自分の国で、HIV/エイズに関する情報を得たことがありますか？ *

- 1 ある
- 2 ない

Q14 あなたは、日本で、HIV/エイズに関する情報を得たことがありますか？ *

- 1 ある
- 2 ない

Q15 あなたは日本に来てからHIV/エイズや性感染症のことで相談したいと思ったことがありますか？ *

- 1 ある
- 2 ない

Q16 あなたは日本に来てからHIVや性感染症の検査を受けたいと思ったことがありますか？ *

- 1 ある
- 2 ない

Q17 あなたは日本で、あなたの国の言葉で受けられるHIVや性感染症の検査があったら、受けようと思いますか？ *

- 1 受けたいと思う
- 2 受けたいと思わない

Q18 あなたは、日本では、保健所でHIV検査を無料・匿名で受けられることを知っていますか？ *

- 1 知っている
- 2 知らない

Q19 日本の中で、外国人に向けて、HIV/エイズや性感染症の予防啓発の活動を行っているNGO団体を知っていますか？ *

- 1 知っている
- 2 知らない

Q20 日本の中で、ゲイ・バイセクシュアル男性に向けて、HIV/エイズや性感染症の予防啓発の活動を行っているNGO団体を知っていますか？ *

- 1 知っている
- 2 知らない

Q21 過去 6か月間に、HIV/エイズについて話したことがありますか？（当てはまるものすべてを選んでください） *

- 1 家族と話した
- 2 友人・知人と話した
- 3 彼氏・恋人と話した
- 4 誰とも話したことはない

Q22 あなたは、友人・知人など身近な人でHIVに感染している人を知っていますか？ *

- 1 知っている
- 2 知らない
- 3 わからない

Q23 あなたはこれまでにHIV検査を受けたことがありますか？ *

- 1 ある
- 2 ない

次へ

※このページはSSLによって暗号化されています。

性の健康に関するアンケート

Q23-1 HIV検査を最後に受けたのはいつですか？ *

- 1 1年以内に受けた
- 2 1年以上前に受けた

Q23-2 あなたは日本でHIV検査を受けたことがありますか？ *

- 1 ある
- 2 ない

次へ

※このページはSSLによって暗号化されています。

(C) Multilingual Survey on Sexual Health

性の健康に関するアンケート

Q23-2-1 日本でHIV検査を最後に受けたのはいつですか？ *

- 1 1年以内に受けた
- 2 1年以上前に受けた

Q23-2-2 あなたは日本のどこでHIV検査を受けましたか？(当てはまるものすべてを選んでください) *

- 1 病院・クリニック
- 2 保健所
- 3 郵送検査
- 4 その他

次へ

※このページはSSLによって暗号化されています。

(C) Multilingual Survey on Sexual Health

性の健康に関するアンケート

Q24 あなたは、これまでに性感染症にかかったことがありますか？ *

- 1 ある
 - 2 ない
-

次へ

※このページはSSLによって暗号化されています。

性の健康に関するアンケート

Q24-1 これまでにかかったことがある性感染症はどれですか？（当てはまるものすべてを選んでください）*

- 1 梅毒
- 2 A型肝炎
- 3 B型肝炎
- 4 クラミジア
- 5 尖圭コンジローマ
- 6 淋病
- 7 HIV/AIDS
- 8 赤痢アメーバ
- 9 性器ヘルペス
- 10 その他

Q24-2 次の中で、過去1年間にかかったことがある性感染症はありますか？（当てはまるものすべてを選んでください）*

- 1 梅毒
- 2 A型肝炎
- 3 B型肝炎
- 4 クラミジア
- 5 尖圭コンジローマ
- 6 淋病
- 7 HIV/AIDS
- 8 赤痢アメーバ
- 9 性器ヘルペス
- 10 その他
- 0 この1年間にかかったことがない

[次へ](#)

※このページはSSLによって暗号化されています。

性の健康に関するアンケート

Q25-1 あなたがこれまでにセックスした相手は次のどれですか。*

- 1 異性のみ
- 2 同性のみ
- 3 異性と同性

Q25-2 あなたは、過去6か月間に、セックスをしたことがありますか？*

- 1 ある
- 2 ない

次へ

※このページはSSLによって暗号化されています。

(C) Multilingual Survey on Sexual Health

性の健康に関するアンケート

Q25-2-1 あなたは、過去6か月間のセックスのとき、コンドームを使いましたか？*

- 1 必ず使った
- 2 使うことが多かった
- 3 五分の割合で使った
- 4 使わないことが多かった
- 5 全く使わなかった

Q25-2-2 あなたは、過去6か月間に、日本でセックスをしたことがありますか。*

- 1 ある
- 2 ない

次へ

※このページはSSLによって暗号化されています。

(C) Multilingual Survey on Sexual Health

性の健康に関するアンケート

あなたのことや、あなたの性経験やそれに関連したことをおたずねします？
プライベートな質問で答えづらい質問もありますが、できるだけ協力をお願いします。

Q25 あなたはこれまでにセックスをしたことがありますか？
ここでのセックスは、膣性交、肛門性交をさします。*

- 1 ある
- 2 ない

次へ

※このページはSSLによって暗号化されています。

(C) Multilingual Survey on Sexual Health

性の健康に関するアンケート

Q25-2-3 一番最後にセックスした相手はどれにあてはまりますか？ *

- 1 彼氏や恋人・パートナー・夫/妻
- 2 セックスフレンド
- 3 その場限りの相手
- 4 その他

Q25-2-4 一番最後にセックスした時、コンドームを使いましたか？ *

- 1 使った
- 2 使わなかった
- 3 覚えていない

次へ

※このページはSSLによって暗号化されています。

(C) Multilingual Survey on Sexual Health

性の健康に関するアンケート

Q26 2016年12月1日から現在までにこのアンケートに回答したことはありますか？ *

- 1 はじめて回答した
 - 2 以前に、このアンケートに回答した
-

次へ

※このページはSSLによって暗号化されています。

厚生労働大臣 殿

機関名 国立大学法人琉球大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 西田 睦



次の職員の平成 30 年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 エイズ対策政策研究事業
2. 研究課題名 MSM における予防啓発活動の評価手法の確立及び PDCA サイクル構築のための研究 (H30-エイズ-一般-006)
3. 研究者名 (所属部局・職名) 大学院医学研究科 感染症・呼吸器・消化器内科学講座 准教授
(氏名・フリガナ) 健山 正男 タテヤマ マサオ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	琉球大学	<input checked="" type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項) 初年度は調査研究の計画段階であり、今後、実施前に倫理審査に諮るため

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

日本の MSM における HIV 感染動向の把握に関する研究 - HIV 感染発生動向を活用した研究

研究分担者：松岡佐織（国立感染症研究所エイズ研究センター 主任研究官）

研究要旨

日本国内のエイズ発生動向報告数を基に、人口動態のうち特に年齢動態に焦点を当てた HIV 診断者の出生年コホート分析等を行うことを目的とした。初年度は分析に必要な基礎データを NESID から抜粋し、出生年コホートに必要なデータの整理を進めるとともに先行研究をもとに分析方法を検討した。2019 年度以降は二次分析を行い、還元方法を検討する。

A. 研究目的

HIV 感染拡大抑制に向け早期診断・早期治療は重要戦略であり、WHO はカスケードケアに基づく 90-90-90 達成を目指すことを推奨している。これは、HIV 陽性者が感染の状況について自らの診断を知っている率（診断率）、診断者の治療率、治療の成功率のいずれも 90%以上を各国が目指すものである。日本国内においても早期診断・早期治療に向け、正確な発生動向把握が重要である。

日本国内年間新規 HIV 診断者（AIDS 発症による診断も含む）は、1984 年の統計開始以降増加が続いていたものの、2008 年の約 1500 件をピークとして横ばい傾向が続き、2015 年以降は年間 1300 件前後を推移している。このように日本全体として新規診断者数は比較的一定に保たれているものの、地域別に詳細に分析すると、新規報告数の多い東京都では報告数はやや減少に転じているものの、九州・沖縄地方で診断者数の顕著な増加など、新規報告数の増減には明らかな地域特性が認められる。地域特性が生じる背景として年齢構成、未診断者を含む HIV 感染者数（Prevalence）、新規 HIV 感染者数（Incidence）、診断率、予防啓発活動の実施の有無、介入の効果、人口動態など様々な要因が関与していることが想定される。しかしながら、想定される各要因

と output として得られる新規 HIV 診断者数（AIDS 発症による診断も含む）の正確な評価が求められているものの、精度の高い基礎情報は多くない。

本研究では想定される因子の中から人口動態、特に年齢動態に焦点を当て HIV 診断者の出生年コホート等の二次分析を行うことを目的とする。

B. 研究方法

感染症サーベイランス（National Epidemiological Surveillance of Infectious Disease [NESID]）システムを介して報告されているデータを基に、2 次分析に必要な情報を抜粋した。人口動態は、国勢調査を基にした各年 10 月 1 日人口推計確定値を抜粋し、HIV 報告数のデータと連結した。

（倫理面への配慮）

エイズ発生動向報告値は既に公開されている情報を使用した。今後、エイズ発生動向報告の基礎データとなる感染症サーベイランス（NESID）システムの閲覧が必要になった場合は、管理規約に基づき管理者へ申請し閲覧の許可を得ることを申し合わせた。

C. 研究結果

新規 HIV 感染者および AIDS 患者の年齢、診断された暦年、報告地域（都道府県）、推定される感染経路に関して抜粋し、データの整理を進めるとともに、各年の確定値（報告値）、先行研究で収集されているデータと照合した。

D. 考察

本研究班全体として MSM 対象の予防啓発活動における地域間連携をもとに新たな活動計画を策定、PDCA サイクルを導入することで、日本全体の MSM の予防啓発の浸透度を把握し、予防啓発活動の可視化を目指している。2000 年以降、日本国内において MSM を対象とした大規模な HIV 感染拡大予防戦略が展開され、地域ごとの予防啓発活動の基盤の整備に貢献したとともに、研究の推進により HIV 感染拡大予防のための具体的な数値目標が提示され、2008 年以降の新規 HIV 診断者報告数の抑制に大きく寄与しているものと考えられている。日本国内では HIV 感染者が諸外国と比較し新規感染者（報告数）が少ないことから、予防啓発および介入の効果の評価が非常に難しい。しかしながら戦略研究が終了し 10 年が経過した今、予防啓発活動後の HIV 検査数の推移、新規 HIV 診断者数の経年変化が明らかになりつつある。本分担研究である出生年コホート等の 2 次分析結果は過去に行われた研究活動の効果を評価に結びつけるための有用な基礎情報としての活用が期待される。

E. 結論

日本の MSM における HIV 感染の動向について、地域別の動向や出生年コホート等の 2 次分析を行い、班会議等で情報を還元することを目的とした。初年度は分析に必要な基礎データを NESID から抜粋し、出生年コホートに必要なデータの整理を進めた。さらに先行研究をもとに、分析方法を検討した。2019 年度以降は 2 次分析を行い、還元方法を検討する。

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Takahashi, N., Matsuoka S., Minh, T. T. T., Ba, H. P., Naruse, T. K., Kimura, A., Shiino, T., Kawana-Tachikawa, A., Ishikawa, K., Matano, T., and Thi, L. A. N. Human leukocyte antigen-associated gag and nef polymorphisms in HIV-1 subtype A/E-infected individuals in Vietnam. *Microbes Infect.* 2018. (18), 30163-30171.
- 2) Kato H, Kanou K, Arima Y, Ando F, Matsuoka S, Yoshimura K, Matano T, Matsui T, Sunagawa T, Oishi K. The importance of accounting for testing and positivity in surveillance by time and place: an illustration from HIV surveillance in Japan. *Epidemiol Infect.* 2018. 12:1-7.
- 3) 松岡佐織 2015 年以降の日本国内 HIV/AIDS 発生動向分析 病原微生物検出情報 Vol. 39(9) p151-152, 2018.
- 4) 中村麻子、吉富秀亮、小林孝行、芦塚由紀、梶原淳睦、松岡佐織. 福岡県の HIV/AIDS 発生動向および保健所 HIV 検査陽性検体の解析. 病原微生物検出情報 Vol. 39(9) p151-153, 2018.
- 5) 病原体検出マニュアル後天性免疫不全症候群.
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/labo-manual.html>

2. 学会発表

- 1) 貞升健志、長島真美、北村有里恵、熊谷遼太、根岸あかね、松岡佐織、川畑拓也、近藤真規子、草川 茂、新開敬行、今村顕史. 全国の地方衛生研究所を対象とした HIV 検査精度管理の実施. 第 32 回日本エイズ学会学術集会. 大阪. 2018 年 12 月.

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得 なし。
2. 実用新案登録 なし。
3. その他 なし。

機関名 国立感染症研究所

所属研究機関長 職 名 所長

氏 名 脇田 隆守



次の職員の平成30年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 1. 研究事業名 エイズ対策政策研究事業
- 2. 研究課題名 MSMにおける予防啓発活動の評価手法の確立及びPCDA サイクル構築のための研究
- 3. 研究者名 (所属部局・職名) エイズ研究センター・主任研究官
(氏名・フリガナ) 松岡 佐織・マツオカ サオリ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項) _____

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

医療者による新規患者・診療動向からの評価

研究分担者：山本政弘（九州医療センター）

研究協力者：伊藤俊宏（仙台医療センター）、健山正男（琉球大学大学院医学系研究科）

研究要旨

本研究は、主な医療機関での新規患者の傾向（AIDS 発症の有無/検査場所等）を把握し、予防啓発活動に還元することを目的としている。初年度は、主な医療機関での HIV/AIDS 患者の傾向を把握するためにアンケート調査の内容を検討し、倫理委員会の承認を得た。

内容は、抗 HIV 療法未導入の初診症例の総数、検査施設・医療機関・郵送検査などにおける検査数（自発的な検査および医師からの勧奨、輸血時等）、初診時にエイズを発症していた症例数、新規感染例数の傾向等とした。次年度以降に、各医療機関で最近の傾向についてアンケート調査を実施し、班会議等で還元方法を検討する。各医療機関で最近の傾向について意見聴取し、班会議等で還元する。

A. 研究目的

HIV 感染拡大抑制に向け早期診断・早期治療は重要戦略であり、WHO はカスケードケアに基づく 90-90-90 達成を目指すことを推奨している。これは、HIV 陽性者が感染の状況について自らの診断を知っている率（診断率）、診断者の治療率、治療の成功率のいずれも 90%以上を各国が目指すものである。日本国内においても早期診断・早期治療に向け、コミュニティ当事者を中心に HIV 抗体検査機会を拡大し、HIV 抗体検査受検行動を促進する取り組みが展開されている。

日本国内では特に男性同性間での性的接触による感染が 7 割を占めているが、都市部と地方では状況が異なり、地方では AIDS を発症して報告される例も少なくない。こうしたハイリスク集団を中心に HIV 抗体検査受検行動が促進されれば、医療機関における状況も変化していくことが考えられるため、主な医療機関での新規患者の傾向（AIDS 発症の有無/検査場所等）を把握し、予防啓発活動に還元することを目的としている。

B. 研究方法

初年度は、主な医療機関での HIV/AIDS 患者の傾向を把握するためにアンケート調査の内容を検討し、倫理委員会の承認を得た。

C. 研究結果・考察

内容は、抗 HIV 療法未導入の初診症例の総数、検査施設・医療機関・郵送検査などにおける検査数（自発的な検査および医師からの勧奨、輸血時等）、初診時にエイズを発症していた症例数、新規感染例数の傾向等とした。

次年度以降に、各医療機関で最近の傾向についてアンケート調査を実施し、班会議等で還元方法を検討する。各医療機関で最近の傾向について意見聴取し、班会議等で還元する。

E. 結論

日本の MSM における HIV 感染予防対策では、医療機関とコミュニティとの連携がうまく図られないことも多く、各医療機関で最近の傾向について意見聴取し、班会議等で還元することによって、MSM における予防啓発

活動の評価手法の一助となり、ハイリスク層におけるセクシュアルヘルスの向上につながる事が期待できる。

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) ○嶋根 卓也, 今村 顕史, 池田 和子, 山本政弘, 辻 麻理子, 長与 由紀子, 松本 俊彦: 薬物使用経験のあるHIV陽性者において危険ドラッグ使用が服薬アドヒアランスに与える影響. 日本エイズ学会誌 (1344-9478)20巻1号 Page32-40(2018.02)
- 2) ○金子典代, 塩野徳史, 内海眞, 山本政弘,

健山正男, 鬼塚哲郎, 伊藤俊広, 市川誠一: 成人男性のHIV検査受検, 知識, HIV関連情報入手状況, HIV陽性者の身近さの実態- 2009年調査と2012年調査の比較-. 日本エイズ学会誌, 2017, 19(1):16-23.

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

1. 特許取得 なし。
2. 実用新案登録 なし。
3. その他 なし。

2019年5月13日

厚生労働大臣
—(国立医薬品食品衛生研究所長)— 殿
—(国立保健医療科学院長)—

機関名 国立病院機構九州医療センター

所属研究機関長 職名 院長

氏名 森田 茂樹 印

次の職員の平成30年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。



1. 研究事業名 エイズ対策政策研究事業

2. 研究課題名 MSMにおける予防啓発活動の評価手法の確立及びPDCAサイクル構築のための研究
(H30-エイズ-一般-006)

3. 研究者名 (所属部局・職名) AIDS/HIV総合治療センター 部長
(氏名・フリガナ) 山本 政弘 ・ ヤマモト マサヒロ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入(※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査(※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針(※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	国立病院機構九州医療センター	<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他(特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
長島真美, 貞升健治, 川畑拓也, 近藤真規子, 草川茂, 立川愛, 松岡佐織	後天性免疫不全 症候群 (エイズ) /HIV 感染症	国立感染症 研究所	病原体 検出マ ニュアル	Web 公開		2018 年 10 月改訂	https://www.niid.go.jp/niid/ja/labo-manual.html

雑誌

著者氏名	論文タイトル名	雑誌名	巻	ページ	出版年
Takahashi N, Matsuoka S, Thi Minh TT, Naruse TK, Kimura A, SHiino T, Kawana-Tachikawa A, Ishikawa K, Matano T, Ngyyen Thi LA	Human lucoyto-antigen associated gag and nef polymorphisms in HIV-1 subtype A/E-infected individuals in Vietnam.	Microbes and Infection	21	113-118	2019
Kato H, Kanou K, Arima Y, Ando F, Matsuoka S, Yoshimura K, Matano T, Matsui T, Sunagawa T, Oishi K	The importance of accounting for testing and positivity in surveillance by time and place: an illustration from HIV surveillance in Japan	Epidemiol Infect	146	2072-2078	2018
松岡佐織	2015 年以降の日本国内 HIV 感染発生動向	病原微生物体検 出情報 (IASR)	29	151	2018
中村麻子,吉富秀亮, 小林孝行,芦塚由紀, 梶原淳睦,松岡佐織	福岡県の HIV/AIDS 発生動向 および保健所 HIV 検査陽性 検体の解析	病原微生物体検 出情報 (IASR)	29	151-153	2018
塩野徳史,市川誠一, 金子典代,佐々木由 理	都市部保健所における HIV 抗体検査受検者の特性	厚生の指標	65(5)	35-42	2018.5
金子典代,塩野徳史, 本間隆之,岩橋恒太, 健山正男,市川誠一	地方都市在住の MSM(Men who have sex with men)における 調査時点までと過去 1 年の HIV 検査経験と関連要因	日本エイズ学会 誌	21(1)	34-44	2019.2